

白川「緑の区間」整備計画(案)について

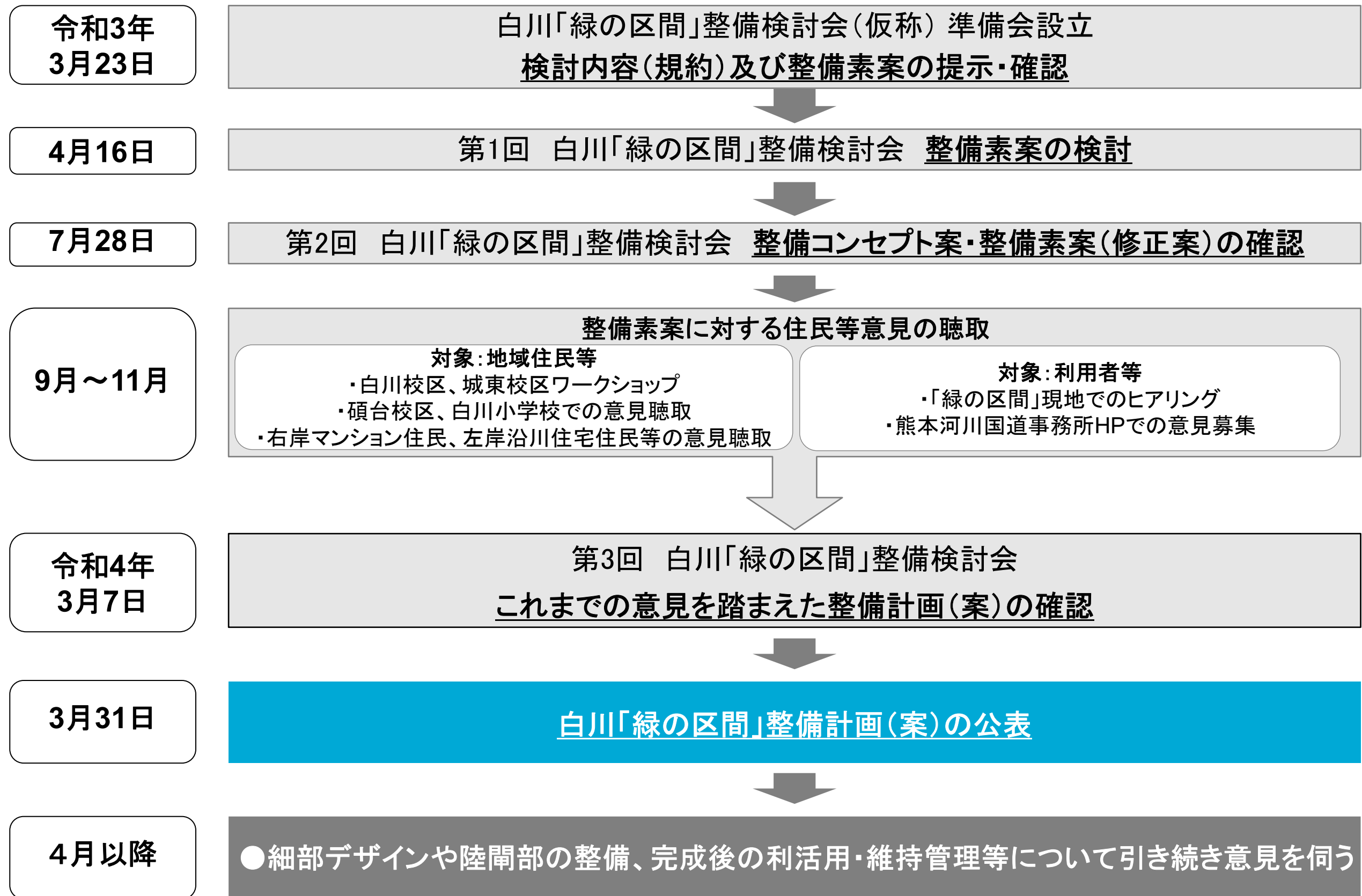
令和4年3月

国土交通省 九州地方整備局

熊本河川国道事務所

1. 検討スケジュール・検討経緯について

白川「緑の区間」整備計画(案)の検討スケジュール



- 白川「緑の区間」の堤防かさ上げによる河川整備を実施するにあたり、維持管理、景観、利活用等に資する住民意見を反映した整備計画の検討を行うことを目的として、令和3年4月に「白川『緑の区間』整備検討会」を立ち上げました。
- 令和3年4月16日の第1回整備検討会と7月28日の第2回整備検討会で議論した内容を取りまとめた「整備素案」について、沿川3校区の地元住民の方や、「緑の区間」の利用者等に広く意見を募ることを目的に、令和3年9月～11月にかけて沿川校区ワークショップや現地ヒアリング、熊本河川国道事務所HPでの公開意見募集を実施しました（詳細は次のページ参照）。
- 整備素案に対して挙げられた意見を踏まえて「白川『緑の区間』整備計画(案)」を検討し、令和4年3月7日に開催された第3回整備検討会にて確認していただきました。
- 今後、現在調整中の事項や、細部のデザイン、陸間部の整備、完成後の利活用・維持管理等について引き続き整備検討会等で意見を伺いながら検討を進めます。



第1回整備検討会の様子(R3.4.16)



第2回整備検討会の様子(R3.7.28)



第3回整備検討会の様子(R4.3.7)

整備素案に関する地元住民・利用者等意見収集の概要

- 沿川校区ワークショップは城東校区(10/22)、白川校区(10/24)において実施しました。(碩台校区は地元要望により、ワークショップ形式ではなく現地ヒアリング実施時に現地に来ていただいて意見を収集しました)
- 現地ヒアリングは平日・休祝日・白川夜市時の計5回実施し、合計110名の方から意見を収集しました。
- 左岸上流側のお宅(9軒)は個別訪問にて意見を収集しました。右岸の沿川マンション2棟はマンション管理組合長・理事会等の代表者に、お寺(法念寺)は住職の方に、白川小学校は校長及び低学年担当の先生に対して整備素案の説明及び意見収集を実施しました。
- 熊本河川国道事務所HPでも整備素案を公開し、5件の意見を収集しました。

【沿川校区ワークショップ】

①城東校区ワークショップ
日時: 10/22(金) 10:00～12:00
地元参加者数: 21名

②白川校区ワークショップ
日時: 10/24(日) 10:00～12:00
地元参加者数: 6名

※碩台校区は現地ヒアリングにて意見収集

【現地ヒアリング】

①1回目
日時: 10/13(水) 15:00～18:00
ヒアリング数: 26名

②2回目(白川夜市)
日時: 10/23(土) 16:00～22:00
ヒアリング数: 35名

③3回目
日時: 10/24(日) 15:00～18:00
ヒアリング数: 21名

④4回目
日時: 10/25(月) 6:00～10:00
ヒアリング数: 9名

⑤5回目
日時: 11/3(水・祝) 6:00～10:00
ヒアリング数: 19名

【個別意見収集】

①左岸上流沿川住宅
日時: 9/25(土)～10/7(木) (9軒)

②右岸沿川マンション2棟・お寺
日時: 10/27(水), 10/30(土), 11/8(月)

③白川小学校
対象: 校長、低学年担当教員(5名)
日時: 11/11(木)

【熊本河川国道事務所HP意見収集】

日時: 10/4(月)～随時 (5件)



城東校区ワークショップ(10/22)



白川校区ワークショップ(10/24)



現地ヒアリング(10/13)



現地ヒアリング(白川夜市10/23)

①車道近接区間の整備



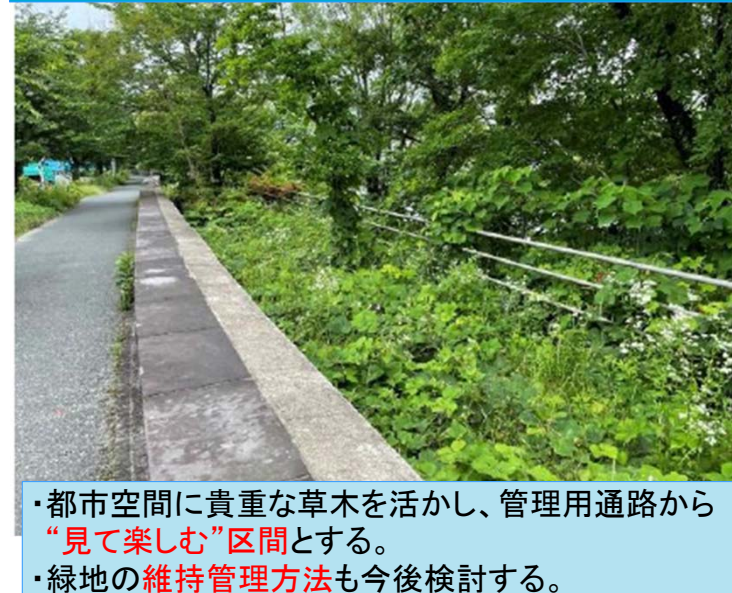
②メルパーク前の整備



③メルパーク前～マンション前の照明



④メルパーク前～マンション前の川表側緑地



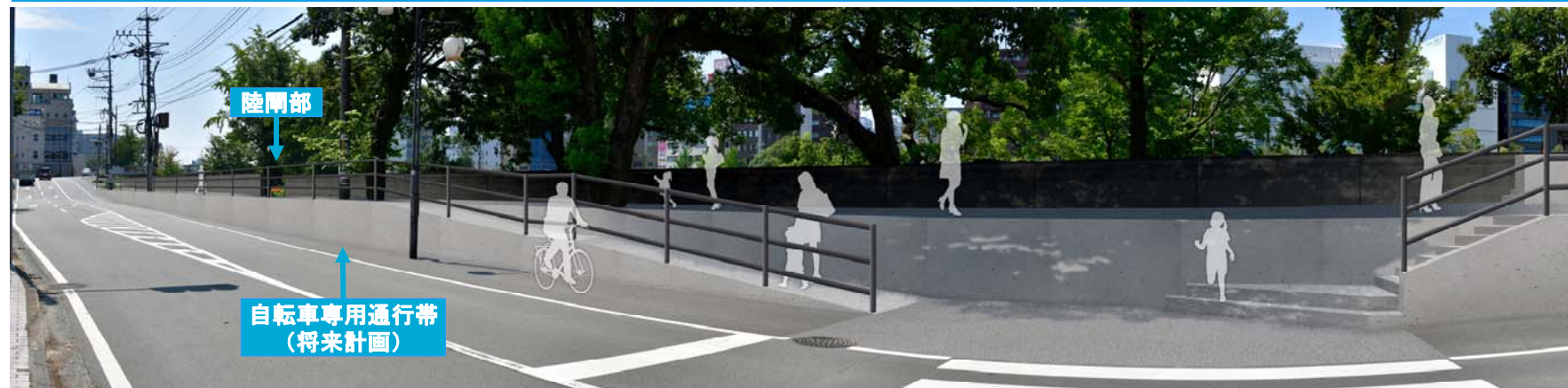
⑤T字交差点部の堤防側面利活用



⑥明午橋橋詰広場のデザイン



①白川小学校前の整備



- ・道路側から川側に乗越す坂路は、多様な利活用やバリアフリーを考慮して、**陸間部**を設けて現状程度の坂路勾配を確保する。
- ・自転車と歩行者の安全な動線分離のため、車道側の自転車専用通行帯整備(将来計画)に必要な最小幅を除き、**残りの歩道・通路を一体かさ上げ**して歩行者用の通路として整備する。

②明午橋橋詰広場のデザイン



- ・橋詰広場に**乗越坂路・階段を整備**して安全かつ快適に通行できるようにする。

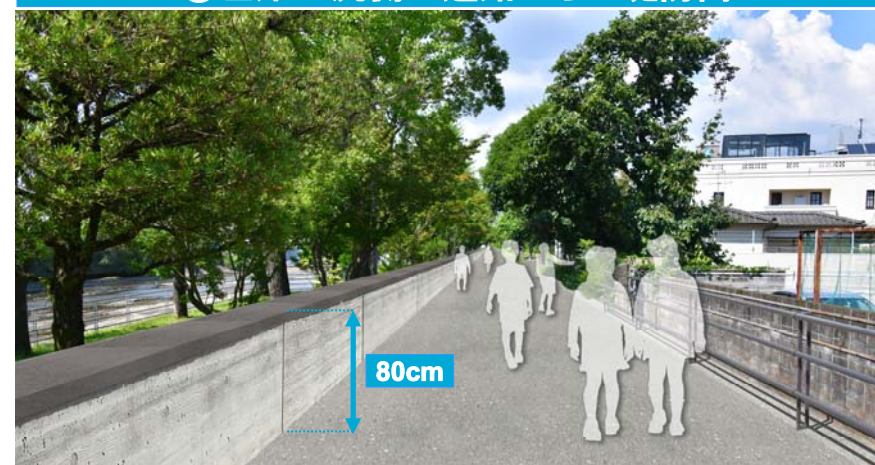


③トイレ～大三角広場の整備



- ・トイレ付近のまち側の通路はかさ上げせず、**トイレへのアクセスを確保**する。
- ・その区間は約1.5mの堤防が一連に立ち上がるため、**上流端に陸間部**を設けて**アクセスを確保**(遮蔽感も低減)する。

④左岸上流側の通路からの堤防高



- ・上流側は小学生の通学路としても利用されており、川への眺望確保のため**通路からの堤防高を80cm**として整備する。
- ・上記については**近隣住民の意見も伺った上で検討**する。

⑤左岸上流側のアクセス確保方法



- ・上流側は、W三角広場付近に**2箇所乗越し階段を設け**、通路側と川側を行き来する通行動線を確保する。

整備素案に対する意見を踏まえた整備計画(案)の検討方針について

○整備素案に対して挙げられた主要な意見を抽出・整理し、整備計画(案)の検討方針を下表最下段の通り設定しました。

対象	右岸側	左岸側	照明(全体)
整備検討会①	・メルパルク駐車場との間の側溝暗渠化で利便性向上 ・メルパルク駐車場と一体に利活用 ・狭い川表側は堤防が高くなると安全面・防犯面で課題 ・堤防の川側・対岸からの見え方を意識	・安全な自転車・歩行者分離 ・無機質でなく違和感がない散策路の堤防側面デザイン ・座る場所(堤防天端)の代替確保 ・アクセス、イベント、バリアフリー対応としての陸間整備 ・白川小前の2本の木は存置	・かさ上げによって暗くなる箇所への照明整備を検討
整備検討会②	・“見て楽しむ区間”に賛成 ・通行止めの方法、維持管理(ゴミ拾い、草刈り)は今後検討する ・右岸側の照度不足区間の照明整備を検討	・テラススペースから横断歩道への飛び出し対策 ・堤防側面を凸凹させる等ベンチ利用の工夫 ・素材を変化させる等川表側の堤防側面は工夫 ・陸間の管理・運用は地元消防団も入れて議論	・まち側の管理用通路は「平均照度3Lx」、川側の公園は「平均照度1Lx」を確保 ・整備後にも全体の光環境を検証
地元ワークショップ	・川側の通路が細い所に入れないようにする案に賛成 ・草刈り等の維持管理は今後検討する ・明午橋橋詰広場の利用方法 ・左岸側も含めた緑地の維持管理の仕組み作り	・現在の自転車通行量を考慮した自転車専用通行帯の幅員を検討	・右岸側はマンション住民の意見を伺いながら照明整備を検討
現地ヒアリング HP意見	・T字交差点部の堤防側面はアートで活用 ・車道側の緑地の維持管理(草刈り)頻度の増加 ・明午橋橋詰はサクラを植栽	・イベント開催への配慮 ・散策時の景観・安全性への配慮 ・白川小学校前の横断歩道箇所は特に安全に配慮	・橋のライティング検討 ・左岸下流側や右岸側が暗くて怖い ・雰囲気良く素敵な照明整備
左岸上流側 沿川住民ヒアリング	－	・通路からの堤防高は安全な高さ110cmがよい ・家の通用口から管理用通路までのアクセス確保	・左岸の照明追加整備も検討 ※熊本市と調整
右岸マンション・ お寺ヒアリング	・かさ上げ整備後の通路からの視線やマンション側への進入防止に配慮 ・歩道を上げることによる石はねへの対策 ・現在の景観・樹木への配慮	－	・現状の照度不足解消
白川小学校ヒアリング	－	・テラススペース歩道部周辺の転落防止対策	－
整備計画(案)の 検討方針	・利活用に配慮した空間とする。 ・夜間でも安心して歩ける明るい歩行空間になるよう検討する。※熊本市と調整 ・現状の緑の区間の散策環境・住環境に配慮した空間とする。 ・メルパルク前～マンション前区間川表側は、管理用通路から“見て楽しむ”空間とする	・自転車と歩行者がそれぞれ安心・安全に通行できる空間とする。 ・白川夜市等のイベント時の利活用に配慮した空間とする。 ・現状の緑の区間の散策環境・住環境に配慮した空間とする。	・今後、堤防かさ上げに伴い照度が不足する箇所の確認を行った上で、緑の区間全体を夜間も安心・安全に歩けるような光環境の創出を検討する。※熊本市と調整

2. 白川「緑の区間」整備計画(案)の説明

○第1回整備検討会での緑の区間の整備に対する意見を集約・整理したものを「**基本方針(案)**」とし、それらを包括するような「**基本テーマ(案)**」を設定し、**堤防かさ上げの整備コンセプト(案)**としました。

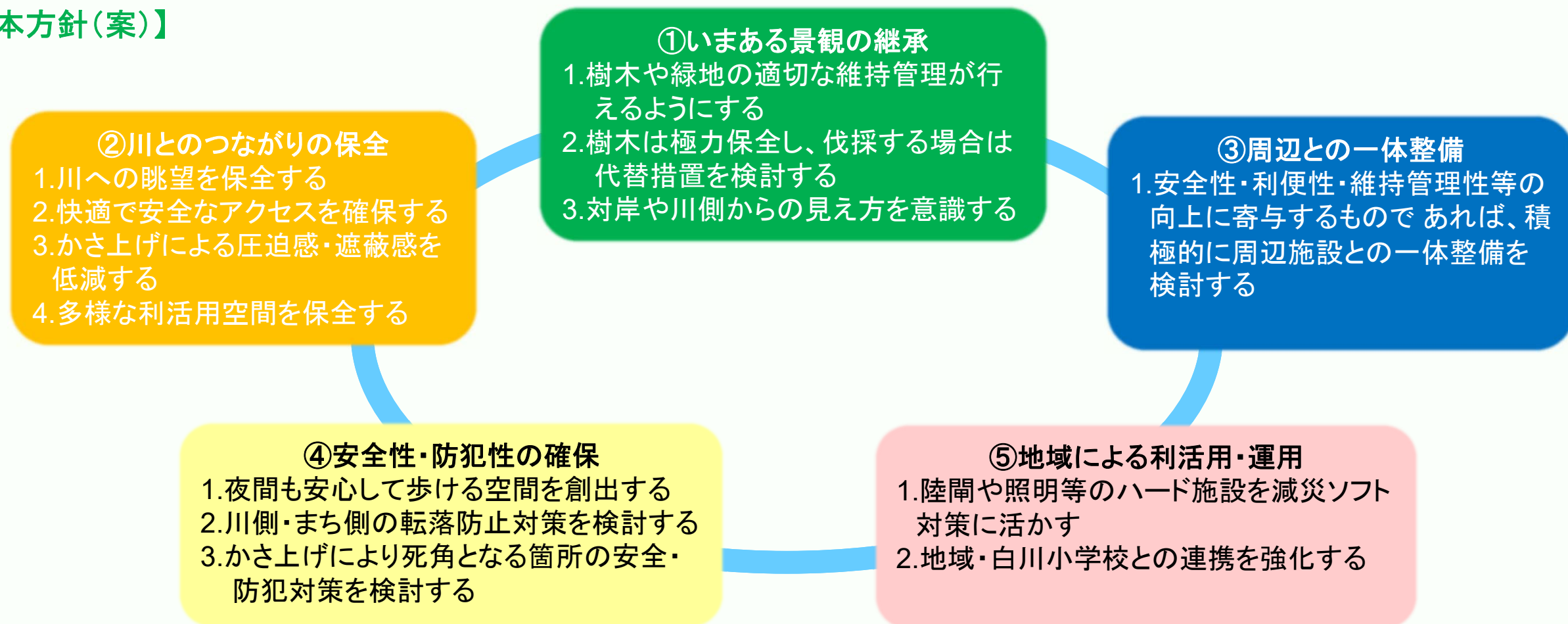
○この**整備コンセプト(案)**は、第2回整備検討会で確認していただいています。

堤防かさ上げの整備コンセプト(案)

【基本テーマ(案)】

まちと川のつながりを感じられる安心・安全な「水と緑の拠点」の保全・創出に向けて
あらゆる関係者が一体となって取組み、更なる地域防災力の向上を目指す

【基本方針(案)】



◆整備目的:洪水時の安全性向上のため、「緑の区間」の堤防をかさ上げする。

かさ上げする高さ:約1.0m～1.6m(平均約1.3m)※堤防の位置は変えない。

◆整備のポイント

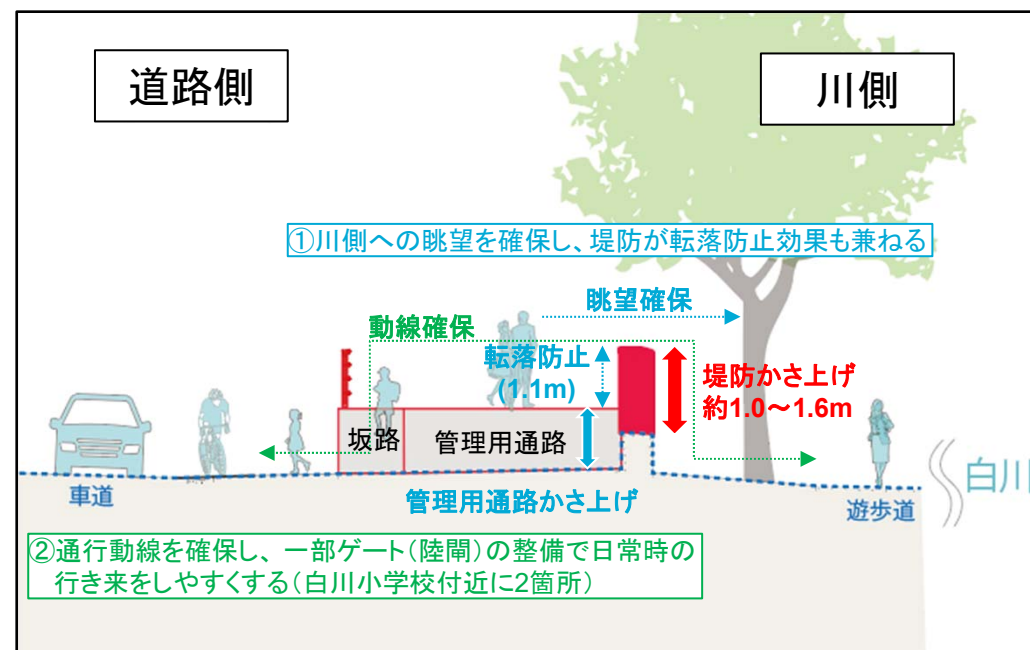
①堤防沿いの管理用通路についても河川巡視や維持管理、水防活動に支障を来さないようかさ上げを行う事を基本とする。また、堤防かさ上げ後の管理用通路から川側への転落防止を兼ねるようにする。※左岸白川小学校前の区間は歩道(熊本市)の一部も管理用通路と一体的にかさ上げる

②かさ上げ後の堤防を乗り越す階段・坂路の整備等により、道路側と川側を行き来する通行動線を確保する。現況の利活用やバリアフリーへ配慮する箇所は、堤防の一部を洪水時のみ手動で閉めるゲート(陸閘)で整備することにより、道路側から川側への日常時の行き来をしやすくする。※陸閘整備は左岸白川小学校前の川側坂路と左岸トイレ上流の広場部の2箇所を予定

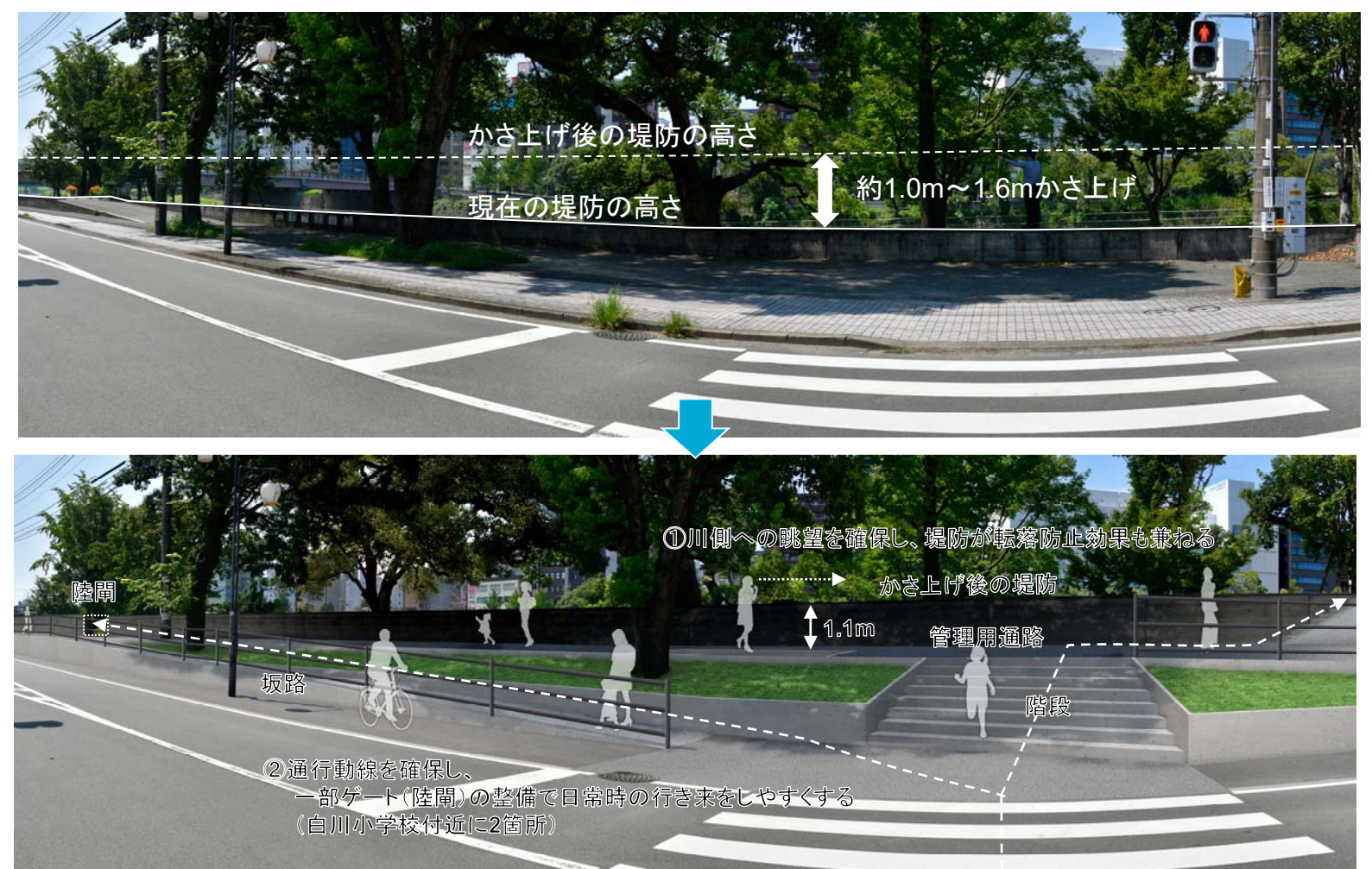


堤防:洪水を安全に流下させることを目的に築造するものです。「緑の区間」の堤防はコンクリートでできています。
管理用通路:普段は歩道と一体に散歩や通学・通勤等で利用されていますが、洪水時には河川の水位の様子等を把握する河川巡視や、土のう運搬作業等の水防活動に使用します。

イメージ横断面図(新屋敷側を例示)



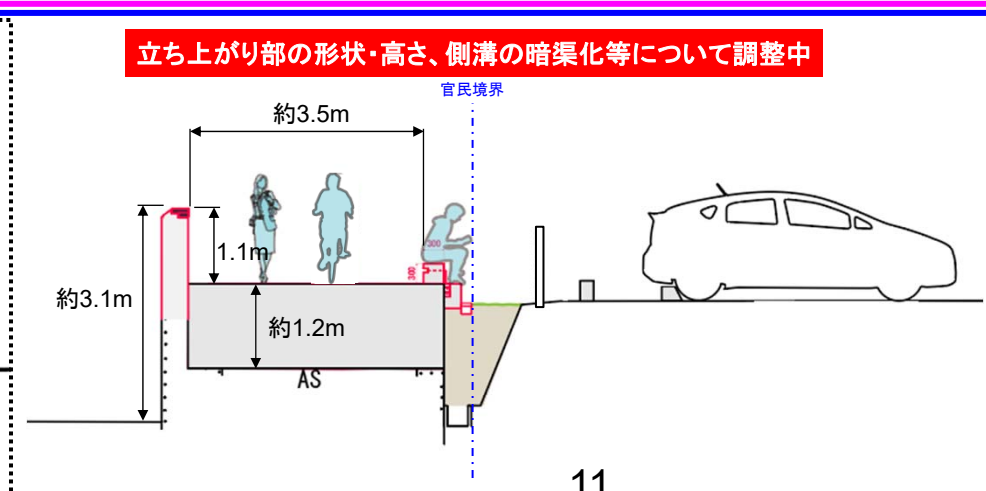
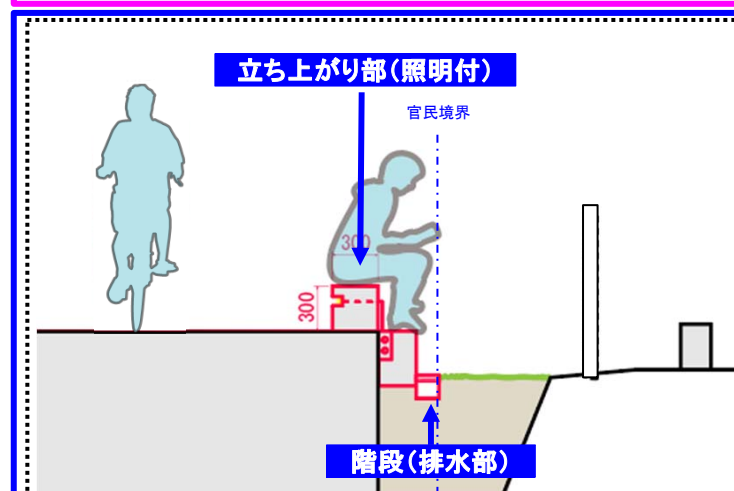
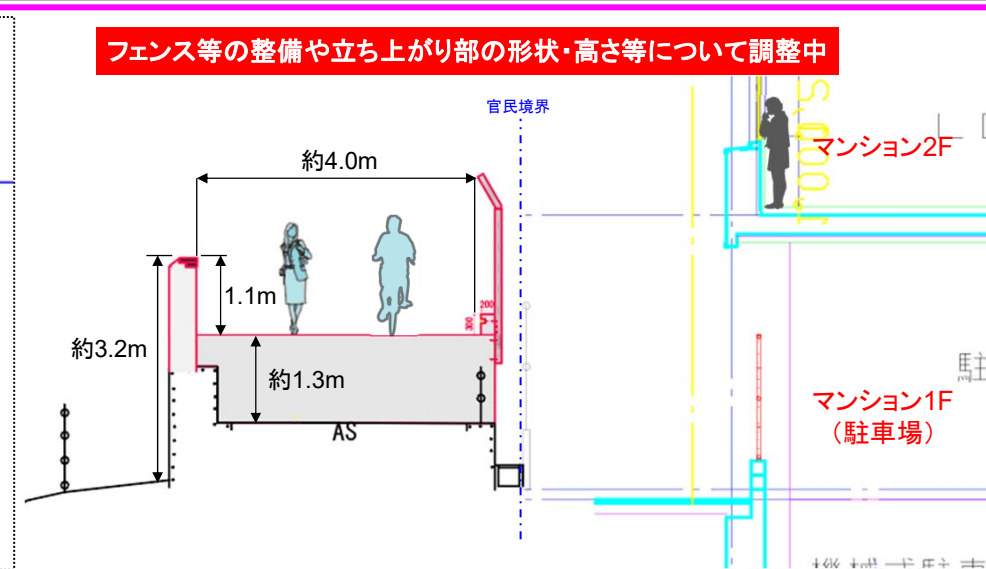
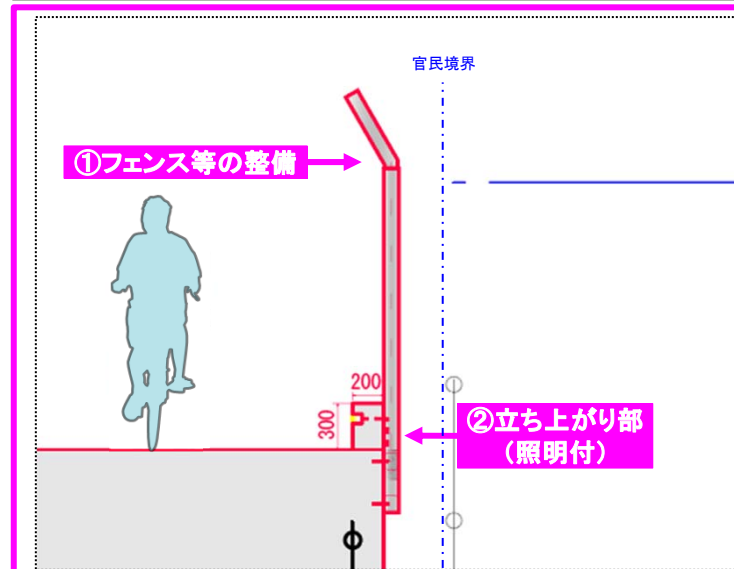
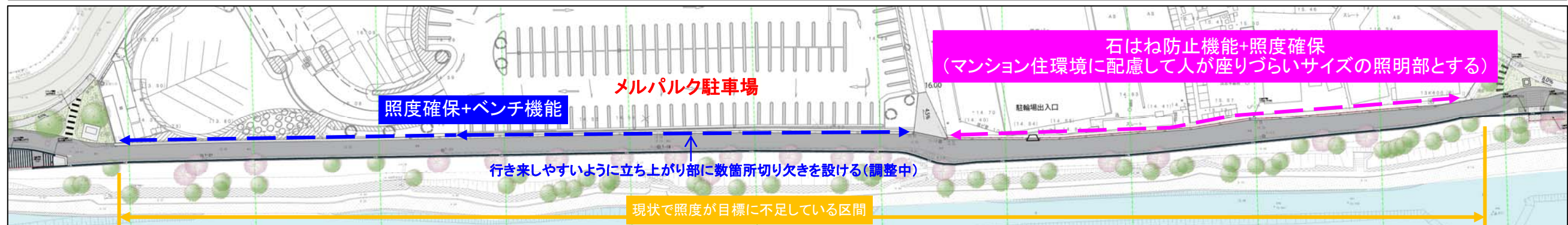
整備イメージ図(白川小学校前を例示)



（１）右岸メルパーク前～マンション前について

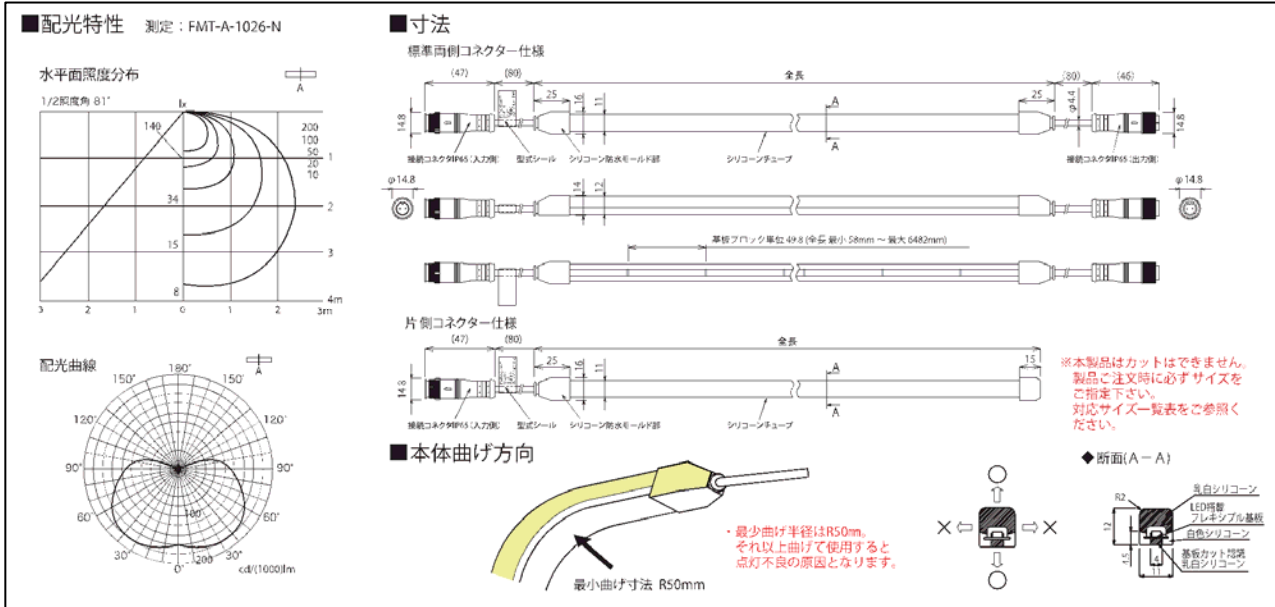
マンション住民、メルパーク関係者、熊本市と調整中 地方整備局

- 通路かさ上げに伴いマンション1階よりも通路の高さが高くなることに対し、①かさ上げ整備後の通路からの視線やマンション側への進入防止への配慮（フェンス等の整備）や②石はね防止対策（1階駐車場に通路から石が飛びこまないような対策）を検討します。（熊本市と調整）
- ②石はね防止対策として、通路端部に縁石程度の立ち上がり部を設ける方法が考えられます。そこに、照明（テープタイプ等）も一体整備（熊本市と調整）することができれば、一連で目標照度を確保できると考えます。（構造物の数を最小限とすることで快適な散策環境にも配慮）
- 立ち上がり部＋照明はメルパーク前区間も設置して連続的に照度を確保する案を検討します（ベンチのように座れるサイズを検討）。また、通路と駐車場の間の段差に階段や切り欠きを設けて行き来しやすくすることで、今後の利活用に配慮します。





防水モールド処理



■調光レベル（PWM制御）

調光器によって自由に多段階調光が可能

レベル表示	A	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
照明照度比率	100%	85%	70%	60%	50%	30%	20%	10%	5%	1%	0%

インジケータ表示



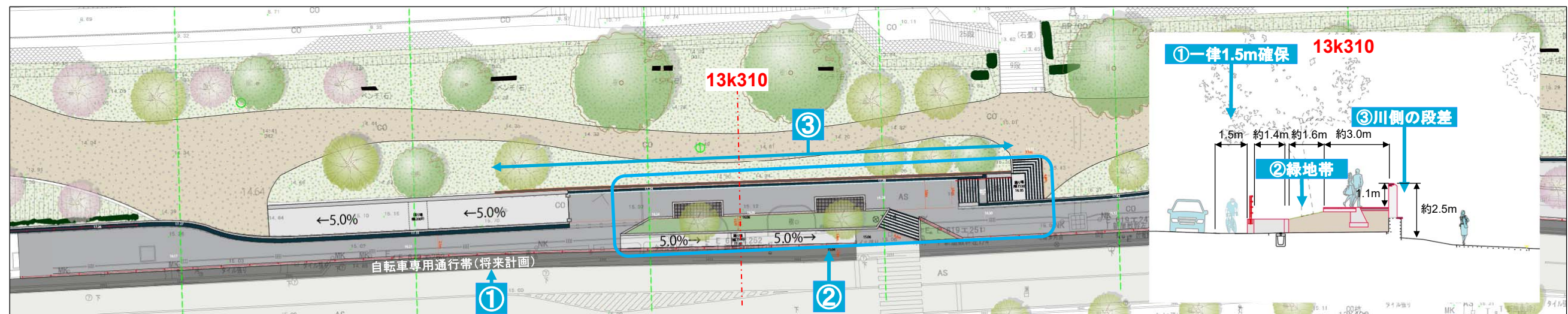
テープライトの整備事例（福岡市）



テープライトの整備事例（福岡市）

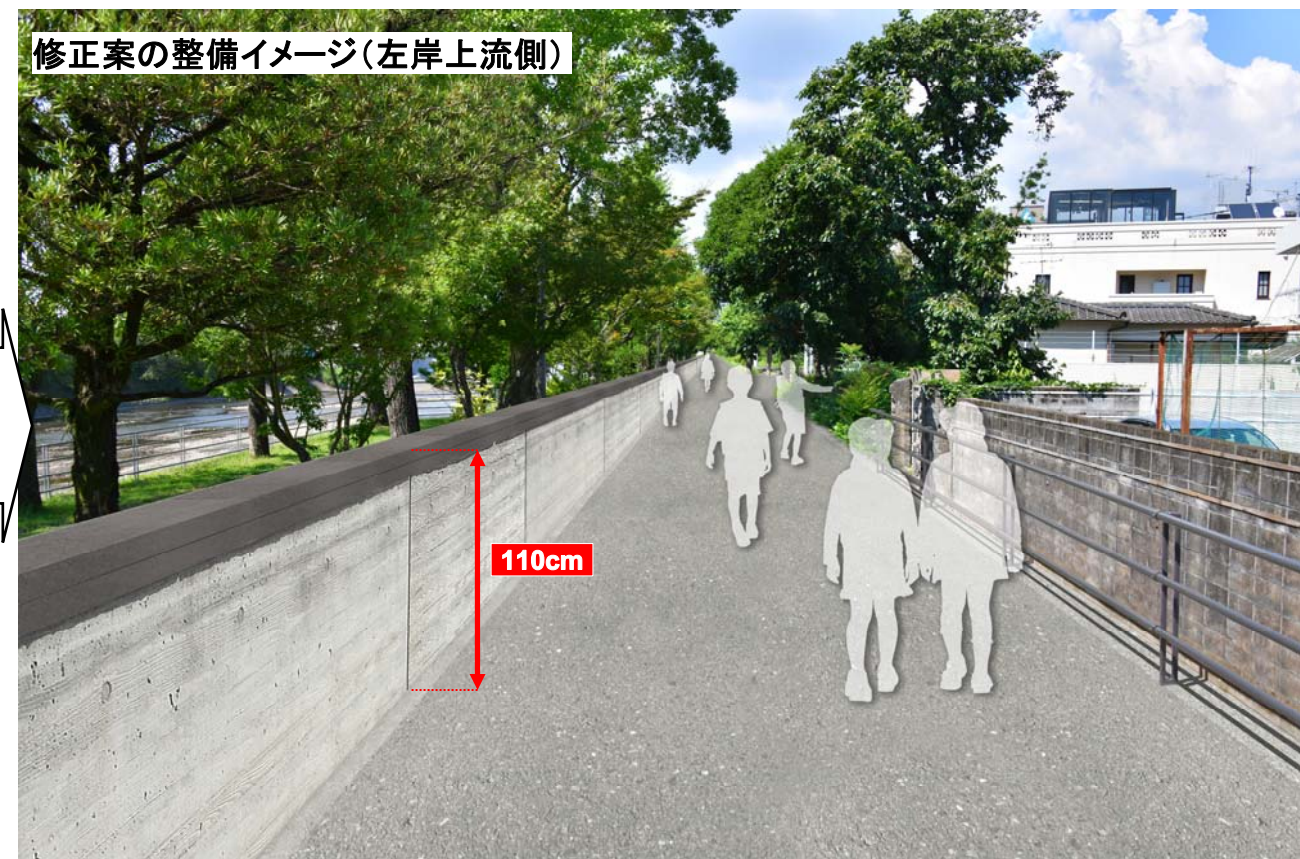
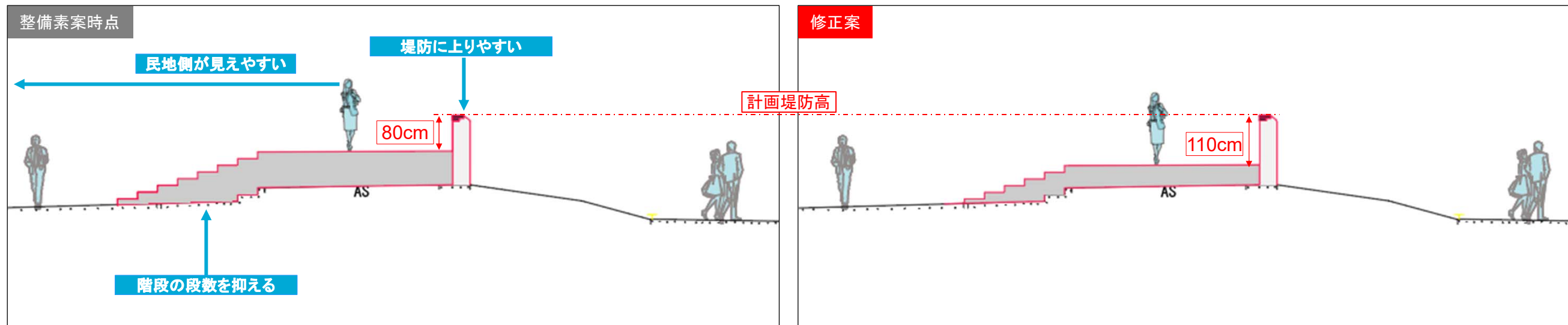
(2) 左岸白川小学校前について

- ① 自転車と歩行者の安全な動線分離のため、道路管理者である熊本市と調整の上、車道側の自転車専用通行帯整備(将来計画)に必要な幅1.5mを除き、残りの歩道・通路を一体かさ上げして歩行者用の通路として整備する案を検討しました。
- ② 横断歩道付近については、安全で快適な利用動線に配慮した階段・坂路の配置とし、樹木周りを緩やかな勾配の緑地帯にすることにより、見通しを確保する案を検討しました。
- ③ 現況の堤防厚さ(約60cm)から、構造上のコンクリート堤防必要厚40cmで整備することにより生じた段差を利用者が腰かけるものに活用することが可能な案を検討しました。



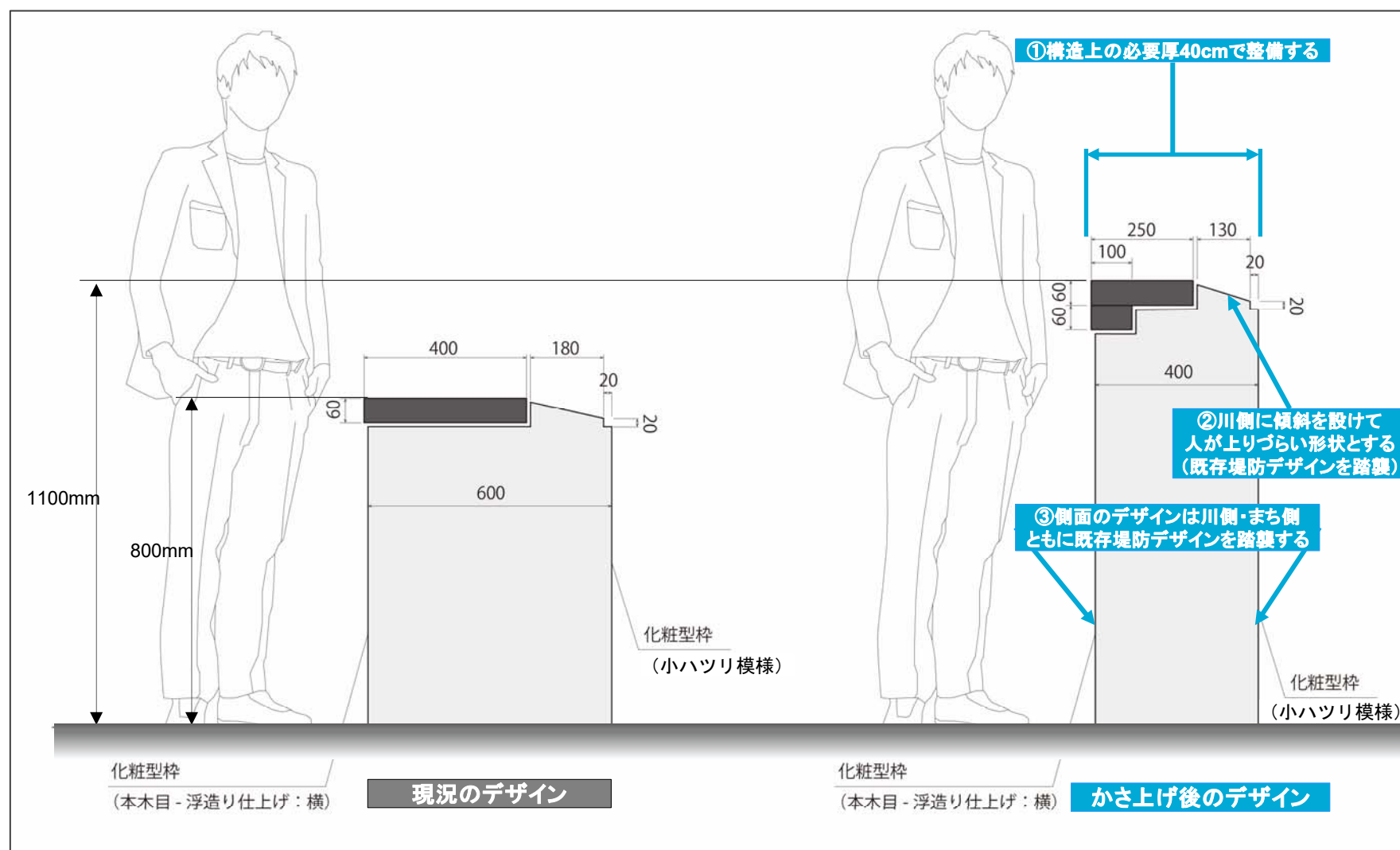
(3) 左岸上流側の管理用通路からの堤防高について

- 整備素案では、左岸上流側管理用通路を小学生が通学に利用している姿が見られることから、**児童でも川側を眺めやすい通路からの堤防高**として、高さ80cmとする案を検討していました。
- 上記について近隣住民や白川小学校の意見を伺ったところ、**安全性(堤防に上りやすい)**や**プライバシー(民地側が見えやすい)**等について懸念される意見が挙げられました。
- そのため、上記意見や**まち側と川側の安全かつ快適なアクセス(階段段数や坂路の勾配を抑える)**を考慮し、通路からの堤防高を110cmとしました。



(4) 堤防のデザインについて

- かさ上げ後の堤防は現況よりも**高くなることにより**、川側との比高差が大きくなるため、堤防に人が上って**落下した場合の危険性が高くなる点**に課題があります。
- 今回、**構造上のコンクリート堤防必要厚40cmで整備し、天端に一部傾斜を設けることにより**人が堤防に上りづらい形状とする案を検討しました。(現況のコンクリート堤防の厚さは約60cm)
- 現況よりも堤防の厚さは薄くなりますが、構造計算を実施して**洪水時の安全性に問題がないことを確認**しました。
- かさ上げ後の堤防のデザインは、既存堤防の**デザイン(天端面のなべた石や堤防側面の化粧型枠)**を基本的に踏襲しています。



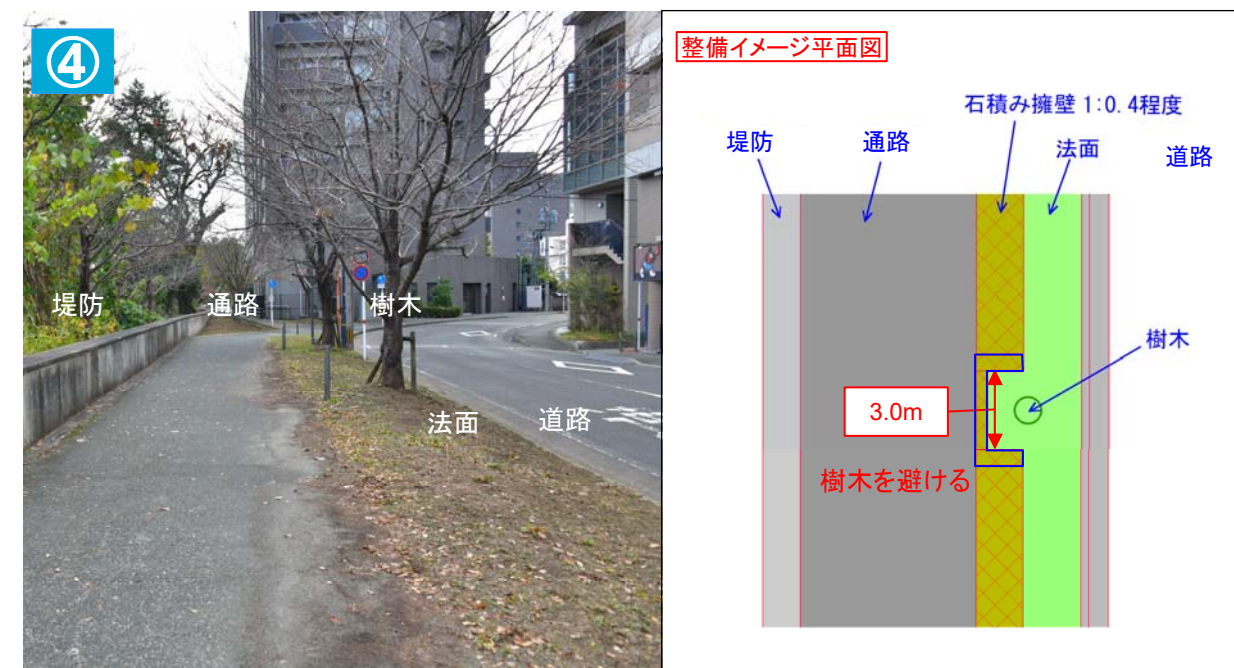
イメージ横断面図



実物大堤防模型による比較

(5) 堤防かさ上げ整備により影響のある樹木について

- ①白川小学校前の2本の樹木等、**管理用通路上にある樹木は、かさ上げ後の通路面までかさ上げる**ことで健全な樹木の生育に配慮します。
- ②明午橋左岸橋詰のウメ等、**階段や坂路の整備予定箇所にある樹木は、整備の影響が小さい箇所に移植する等の保全方法を検討**します。
- ③管理用通路側に張り出している樹木の枝は**かさ上げ後の通行の支障となるため、専門家の指導を受けながら剪定**します。枝分かれ箇所の根元で剪定することで、樹木への影響を最小限とすることができると考えられています。
- ④管理用通路壁面を石積みで修景する箇所については、**道路側法面の樹木を避けるように石積みを整備**します。一般的に幹の直径の1.5～2.0倍程度の離隔を取ればよいと考えられていますが、今回整備では幹の中心から約3.0m(直径の2.0～3.0倍程度)離隔を確保します。



九州地方整備局

○19ページ以降に、各箇所の拡大版及びイメージ横断図、整備イメージ図を示します。

大甲橋

ホテルメルパーク

白川

白川小学校

明午橋

緑地帯整備

堤防かさ上げ

通路かさ上げ

樹木(調整中)

取付坂路整備

転落防止柵整備

ステップ階段整備

石積み整備

陸間部(スイングゲート)

坂路整備

川側に生じる段差の活用(石材設置等)

緑地帯整備(2本の樹木かさ上げ)

取付坂路整備

乗越階段整備

取付階段整備

トイレ

樹木(調整中)

転落防止柵整備

階段・坂路(調整中)

陸間部(スライドゲート)

取付坂路整備

乗越階段整備

乗越階段整備

乗越階段整備

乗越階段整備

取付坂路整備

取付階段整備

取付階段整備

倉庫盤上げ

乗越階段整備

タツタヤマヤエクテナシ移植

ウメ移植

取付坂路整備

坂路整備(管理用)

取付坂路整備

階段・坂路整備

サクラ等植栽

ゴミステーション

乗越階段整備

石碑(調整中)

乗越階段整備

石碑(調整中)

ステップ階段整備(調整中)

フェンス整備(調整中)

境界部の整備(調整中)

取付坂路(調整中)

転落防止柵整備

石積み整備

堤防側面の利活用方法は今後検討

見て楽しむ区間

現況側溝暗渠化(調整中)

側溝(水路)整備(調整中)

境界部の整備(調整中)

【全体に関する検討済事項】

- ・管理用通路からの堤防高(1100mm)
- ・堤防のデザイン

【全体に関する今後検討する事項】

- ・各整備箇所の細部デザイン
- ・照明設備(熊本市と調整)

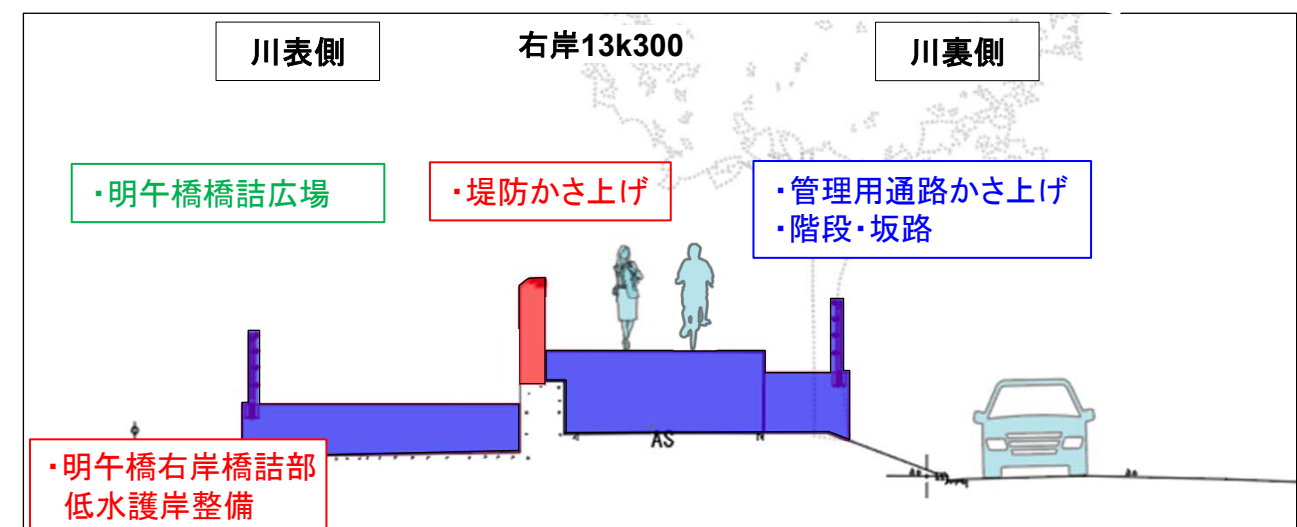
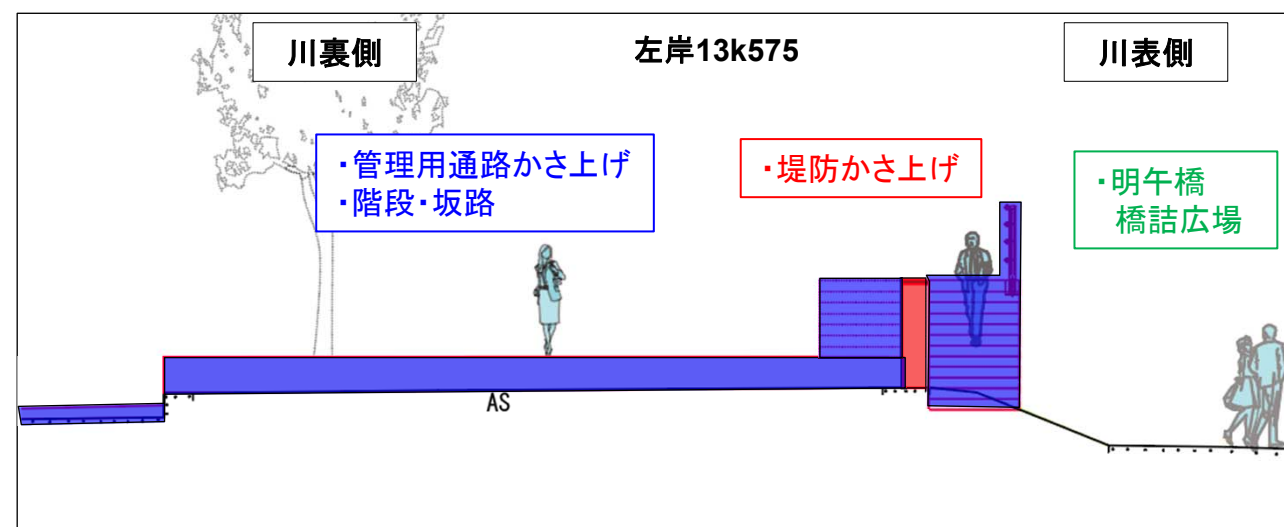
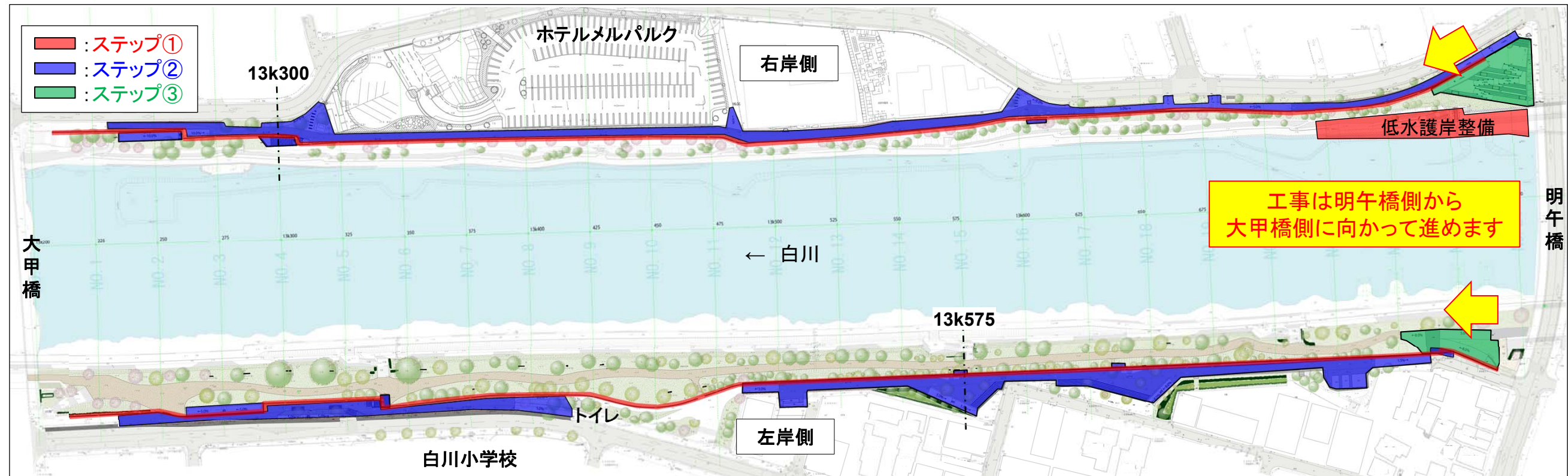
白川「緑の区間」整備計画(案) 工事のステップについて

○整備計画(案)について継続して検討を行いながら、R4年度より工事に着手します。以下に工事のステップを示します。
※「階段・坂路整備(ステップ②)」は、一部他の工事ステップのタイミングで実施する可能性があります。

【ステップ①】・堤防かさ上げ整備 ・明午橋右岸橋詰部低水護岸整備

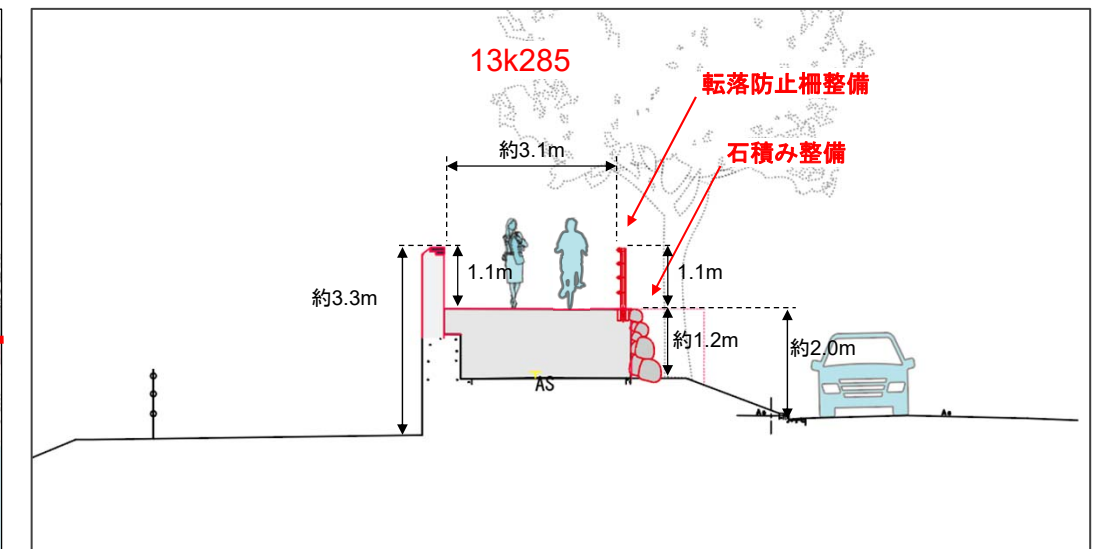
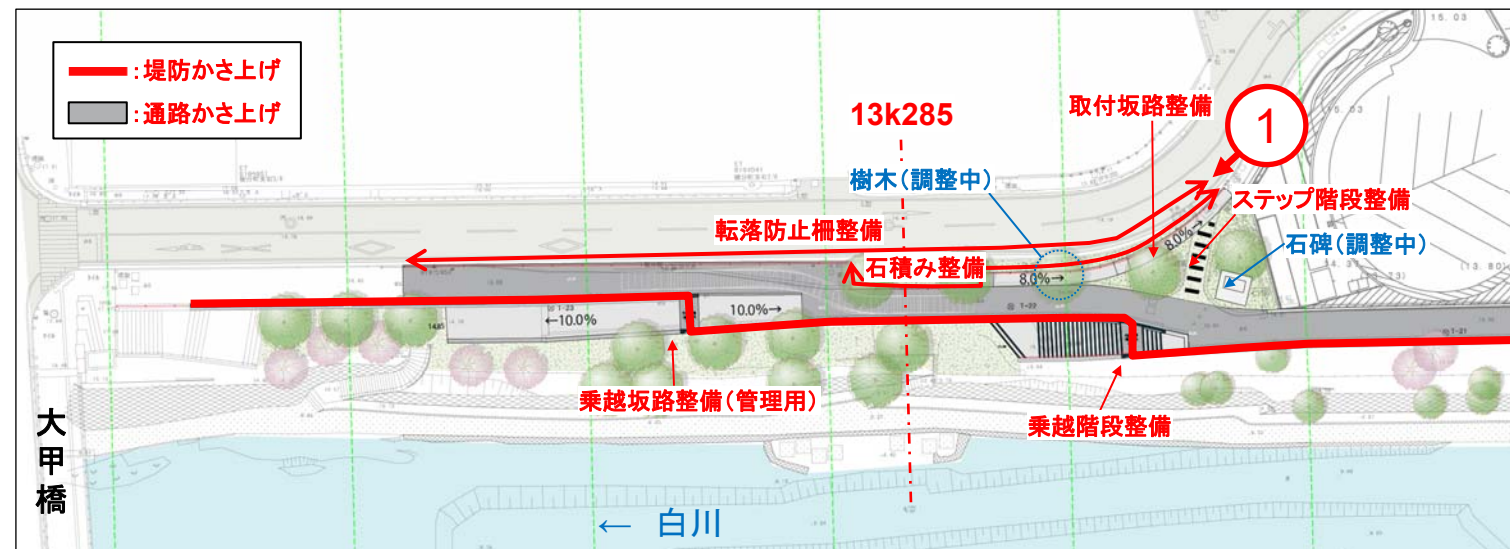
【ステップ②】・管理用通路かさ上げ整備、階段・坂路整備

【ステップ③】・明午橋橋詰広場整備(両岸)



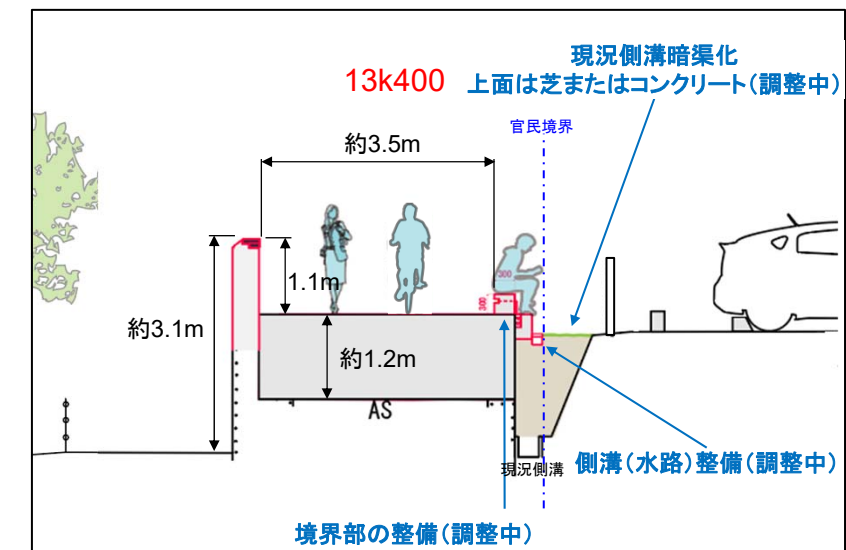
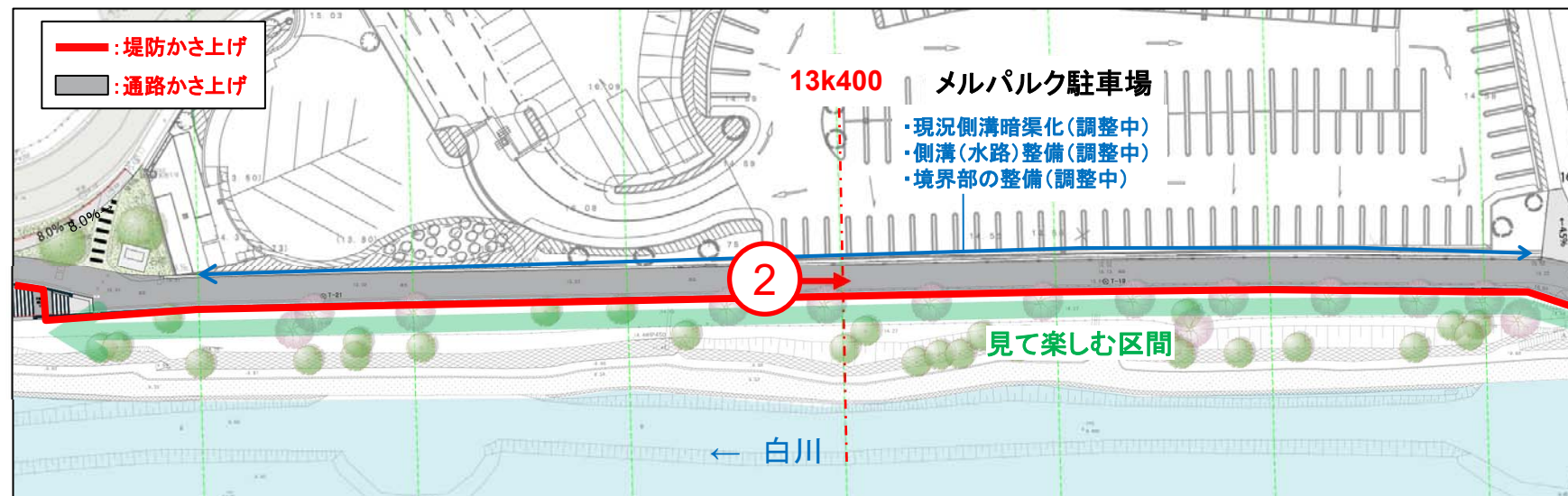
白川「緑の区間」整備計画(案) (1)

- 車道と近接する区間については、安全対策として**通路端部(車道側)**に**転落防止柵**を設置します。
- まち側から見た圧迫感低減のため、**通路壁面の修景対策**として**石積み**での**整備**を実施します。
- 通路脇にある石碑の取り扱いについて**管理者と調整**します。



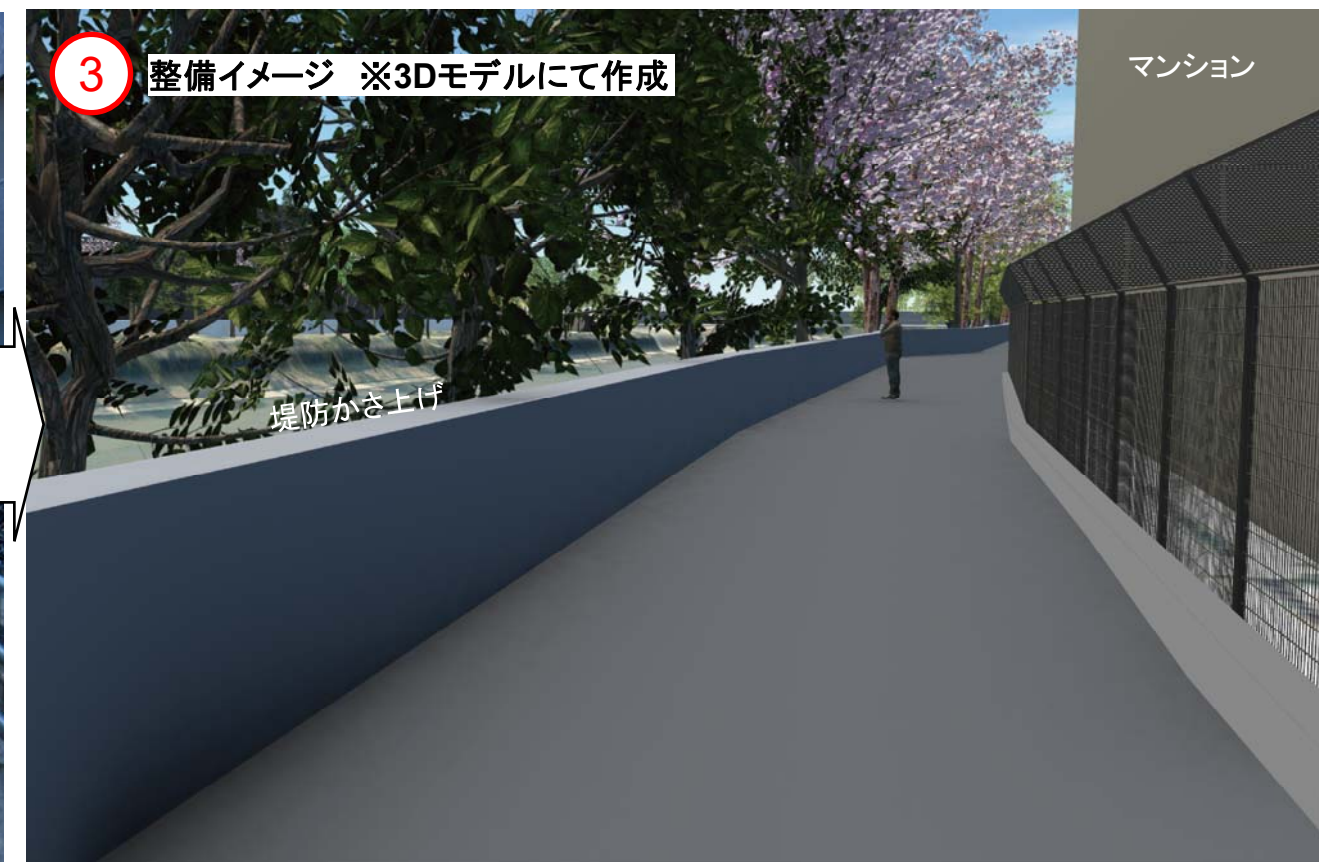
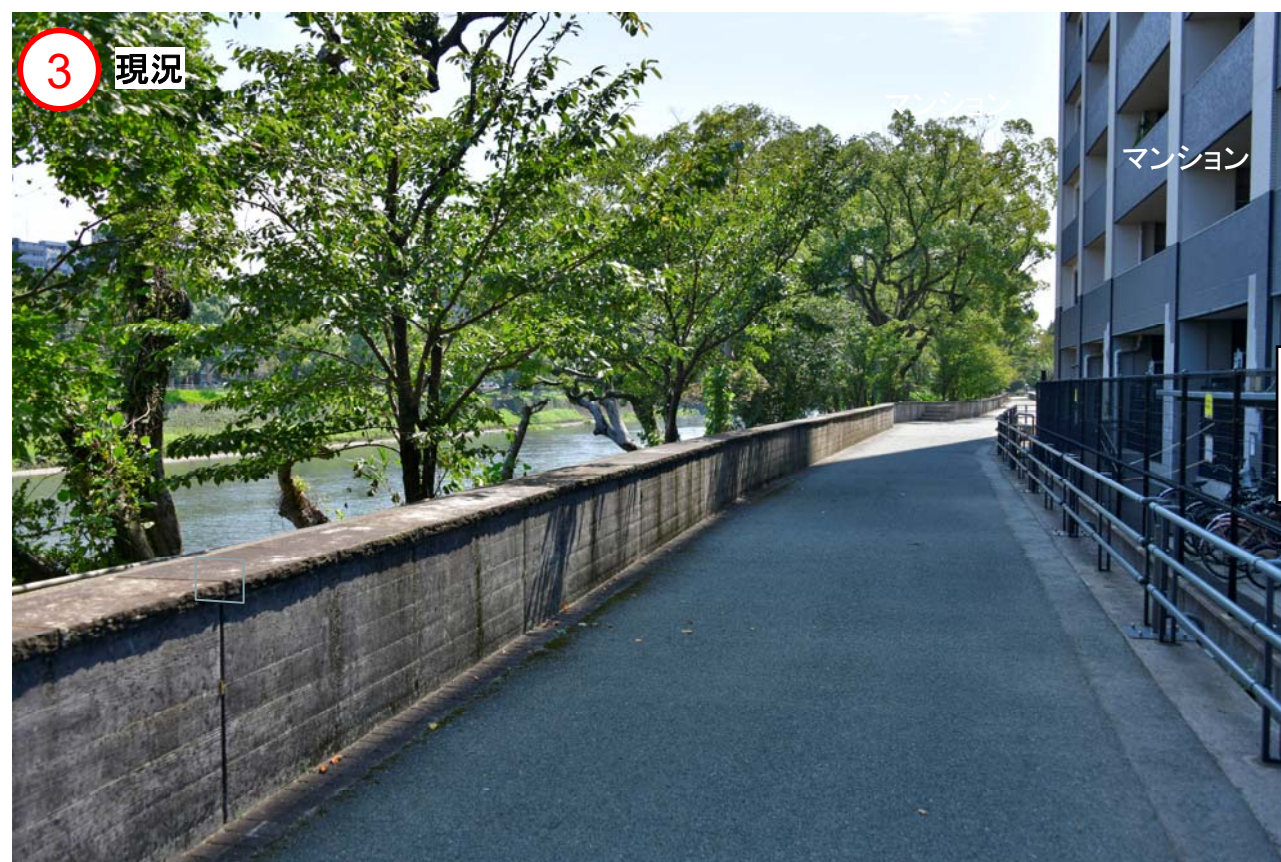
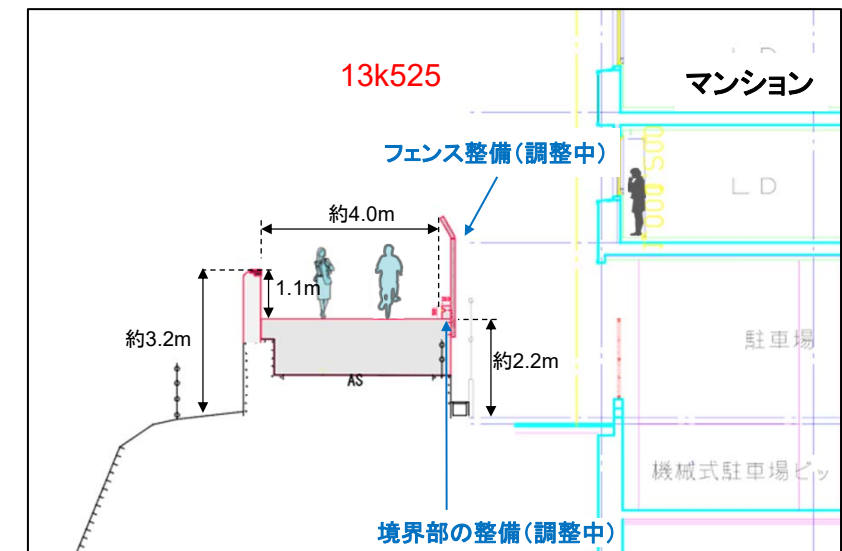
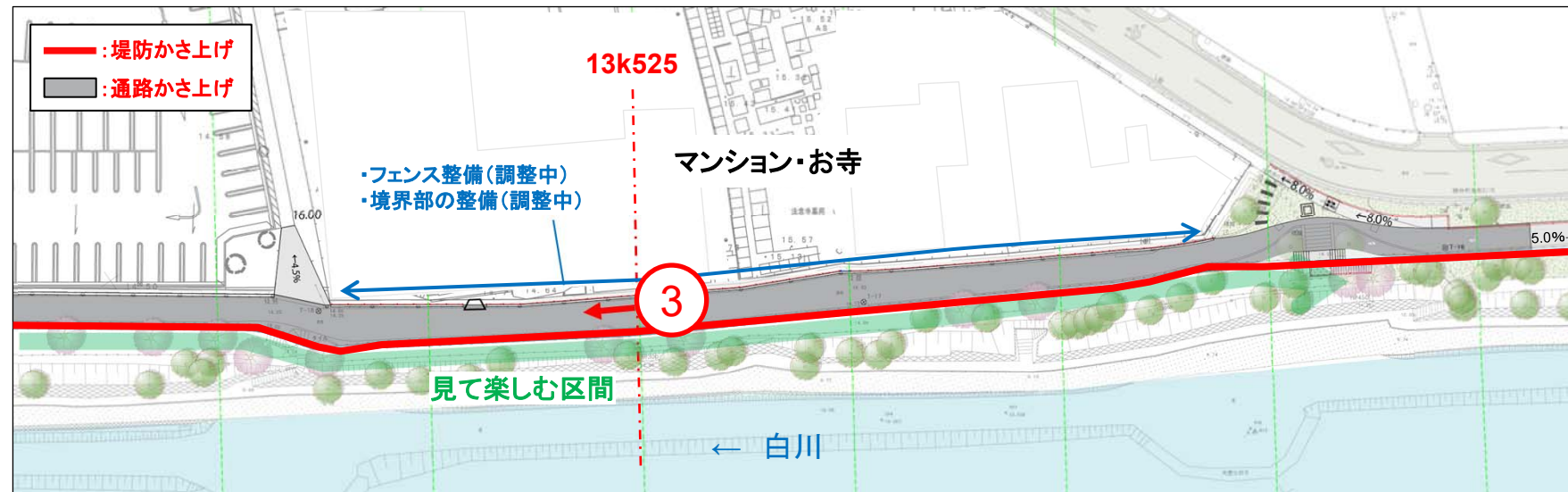
白川「緑の区間」整備計画(案) (2) 調整中

- 通路とメルパーク駐車場の間の溝は埋めて(暗渠化)、通路の端部にベンチサイズの立ち上がり部を設ける等、**今後の利活用に配慮した整備を検討**します(メルパーク関係者等と調整中)。
- 立ち上がり部にテープタイプの照明を埋め込む等、**目標照度(水平面3Lx,鉛直面0.5Lx以上)**の確保に向け検討します(熊本市と調整)。
- 堤防より川側の緑地帯は、**堤防の圧迫感が大きくなる**ため、管理用通路から緑地帯を「**見て楽しむ区間**」とします。

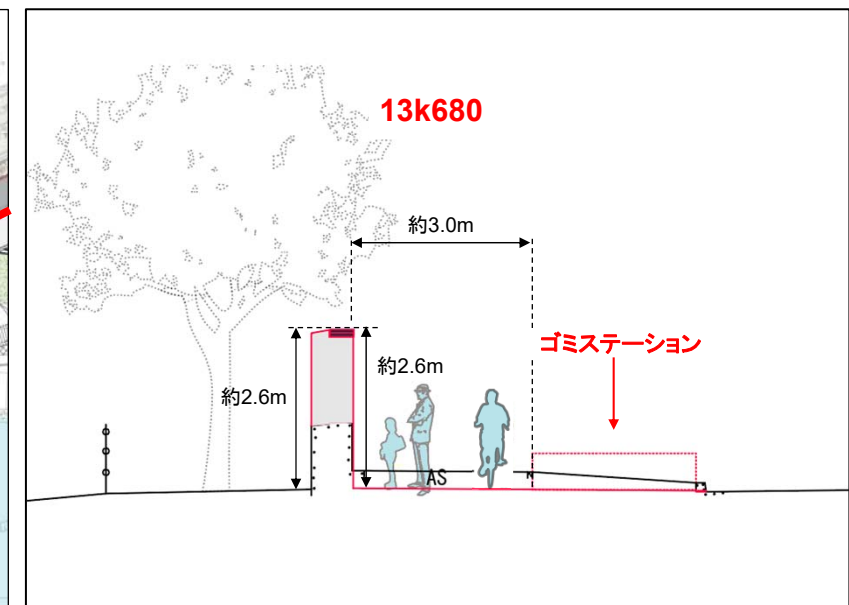
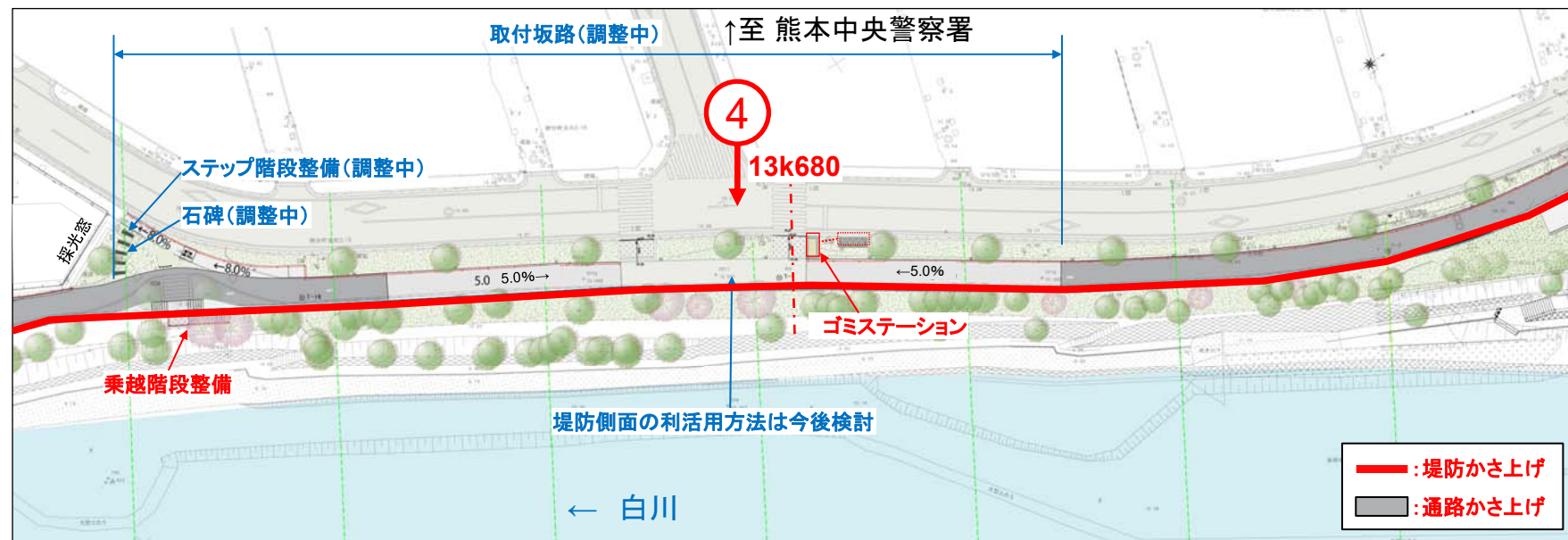


白川「緑の区間」整備計画(案) (3) 調整中

- マンション住環境や散策環境に配慮し、通路のマンション側端部にフェンスと立ち上がり部(人が座りにくいサイズ)を設ける案を検討しています(調整中)。
- 立ち上がり部にテープタイプの照明を埋め込む等、**目標照度(水平面3Lx,鉛直面0.5Lx以上)**の確保に向け検討します(熊本市と調整)。
- 堤防より川側の緑地帯は、**堤防の圧迫感が大きくなる**ため、管理用通路から緑地帯を「**見て楽しむ区間**」とします。

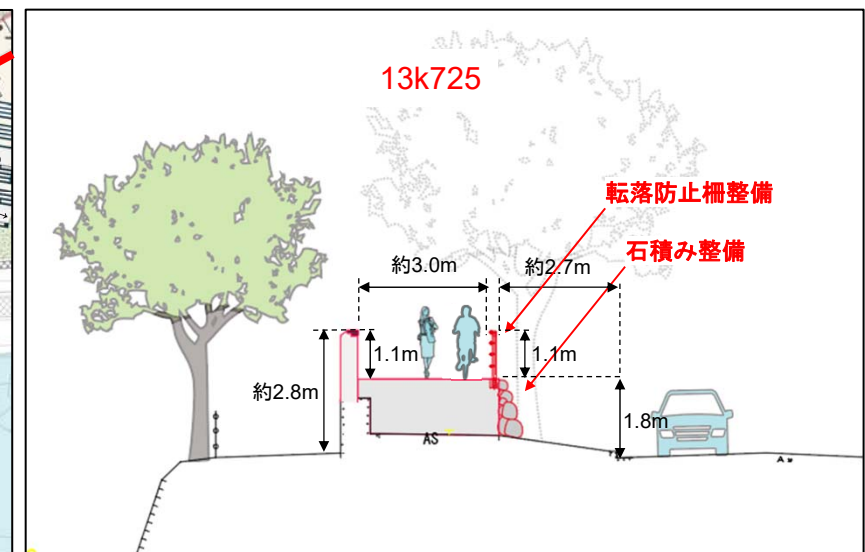
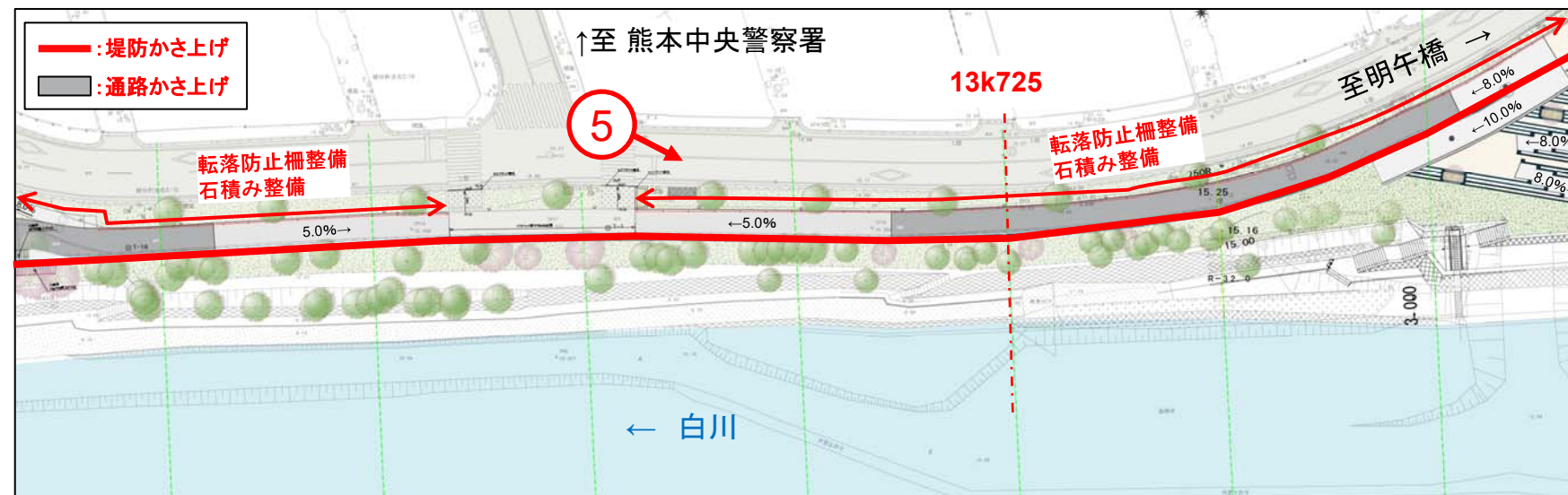


- 中央警察署方面からの交差点部は、洪水時河川巡視等の主要動線の1つとなるため、ここに通路への取付坂路を設ける案を検討しています(調整中)。
- ゴミステーションは若干の場所の移動はあるものの、基本的に原位置のままとしています。
- 坂路の起点部の約2.6m堤防側面は、白川や地域に関する情報等の掲載場所として活用する意見が挙げられています(今後検討)。
- 通路脇にある石碑の取り扱いについて管理者と調整します。石碑裏側のマンション1階に採光窓があるため、光が遮られないよう配慮します。



白川「緑の区間」整備計画(案) (5)

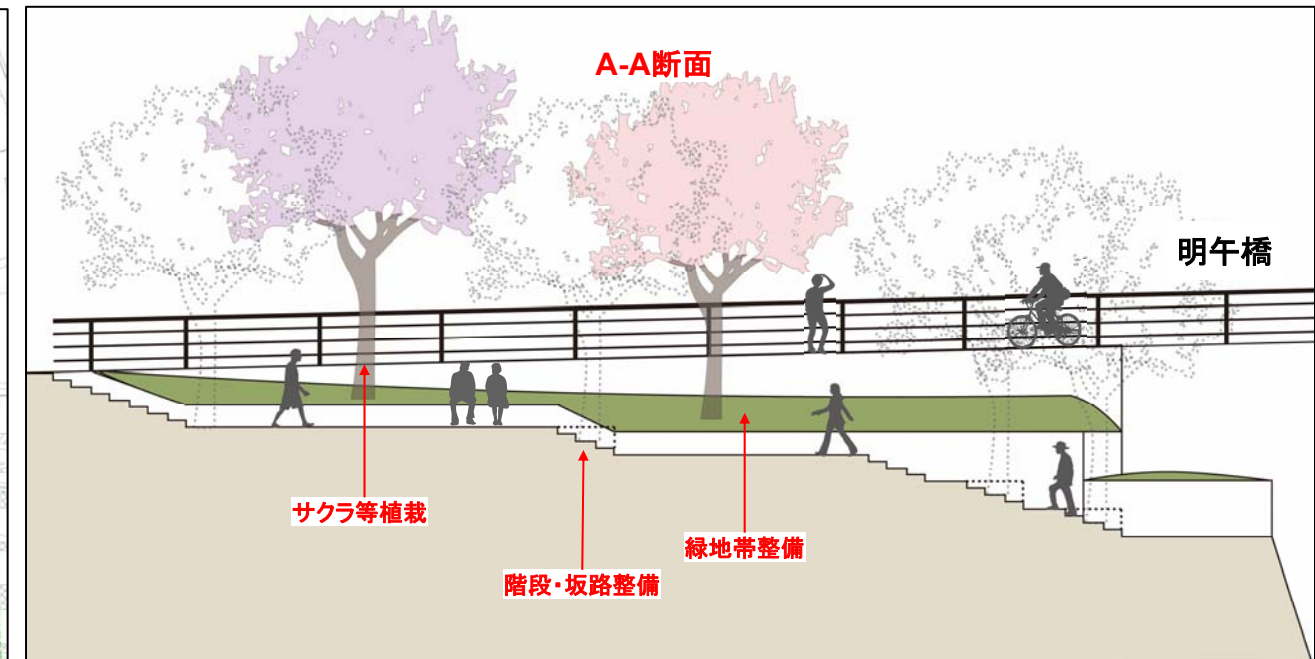
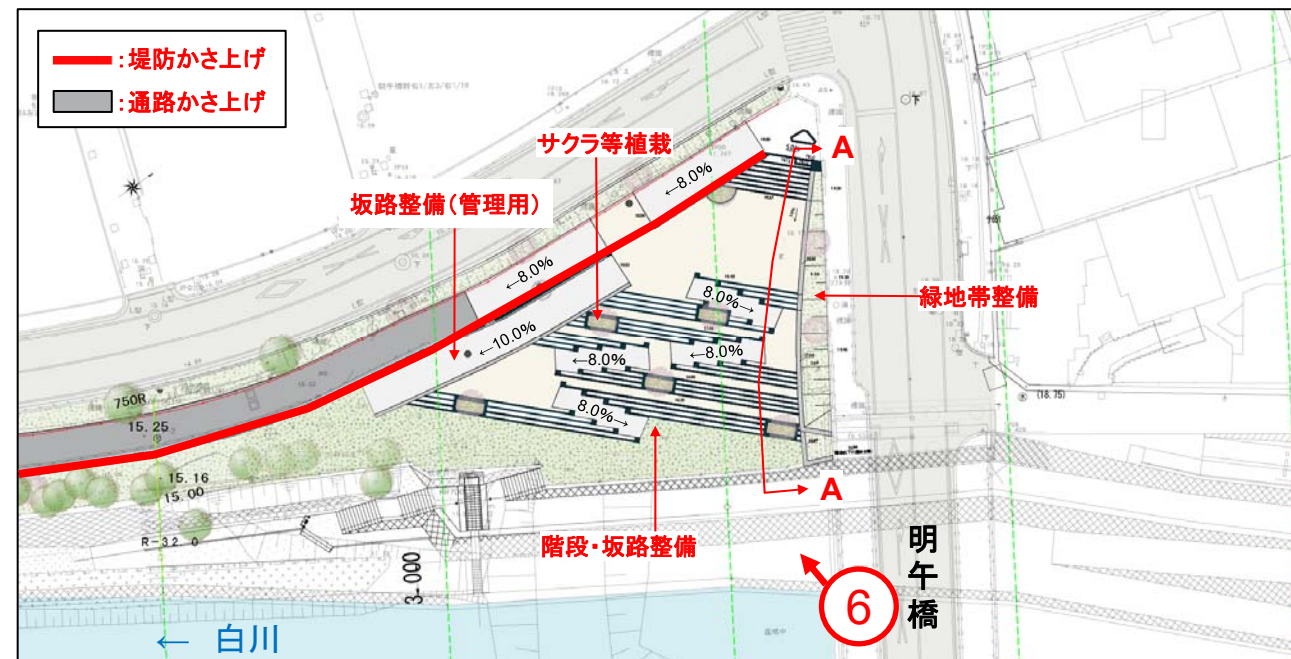
- 車道と近接する区間については、安全対策として**通路端部(車道側)**に**転落防止柵**を設置します。
- まち側から見た圧迫感低減のため、**通路壁面の修景対策**として**石積み**での**整備**を実施します。



白川「緑の区間」整備計画(案) (6)

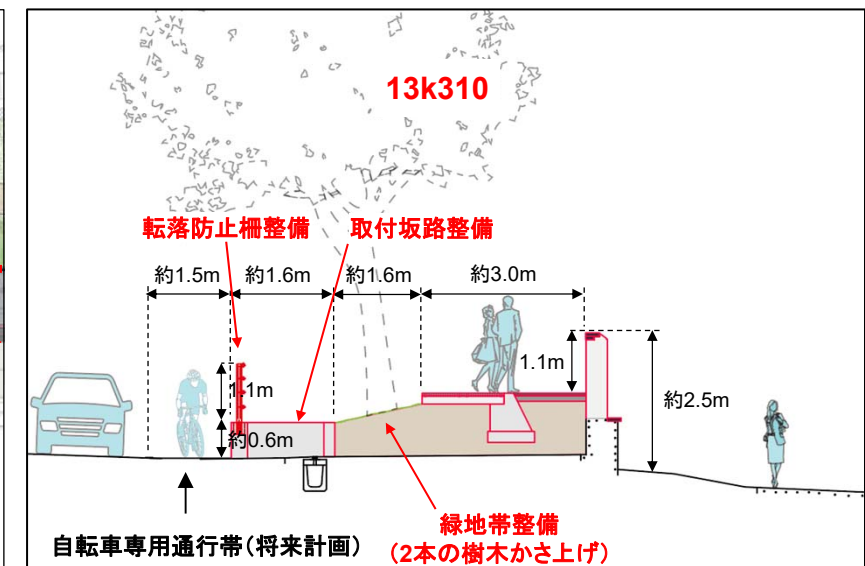
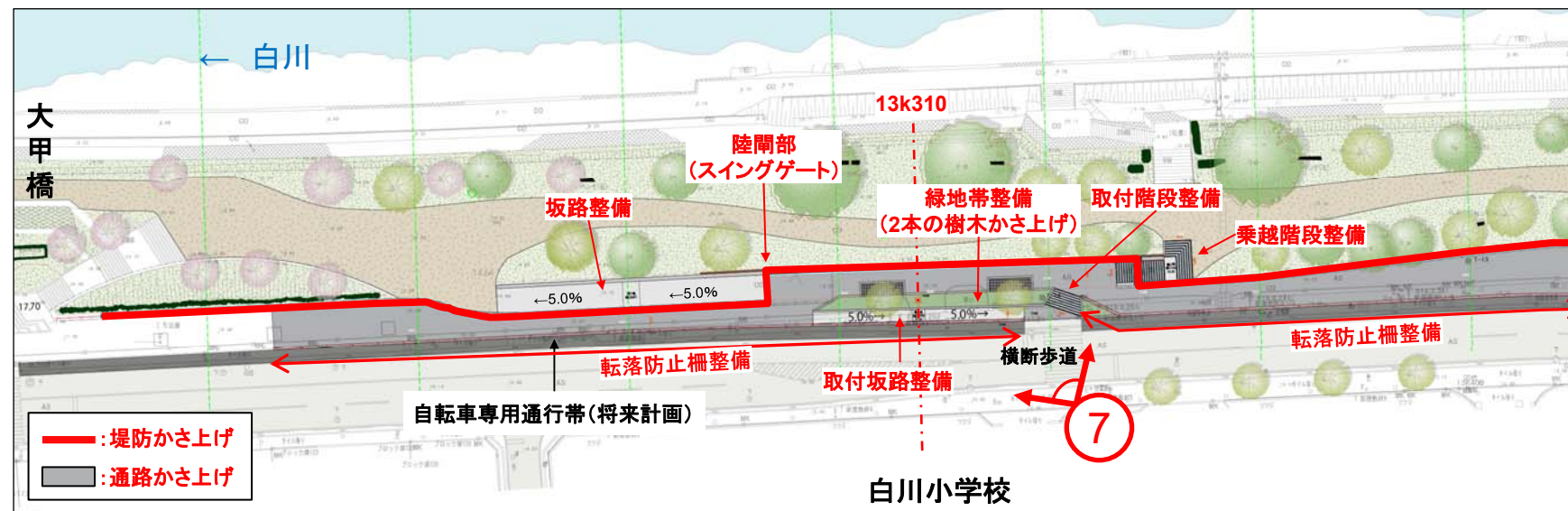
○明午橋右岸橋詰は、明るく人が近寄りやすい場所を目指し、まちと川が緩やかにつながる階段広場として整備します。階段は、緩やかな勾配の坂路と一体的な構造とします。※維持管理用車両が進入可能な坂路も整備します。

○付近はかつて「鶴田公園」と呼ばれていたことも踏まえ、サクラ等を植栽します。



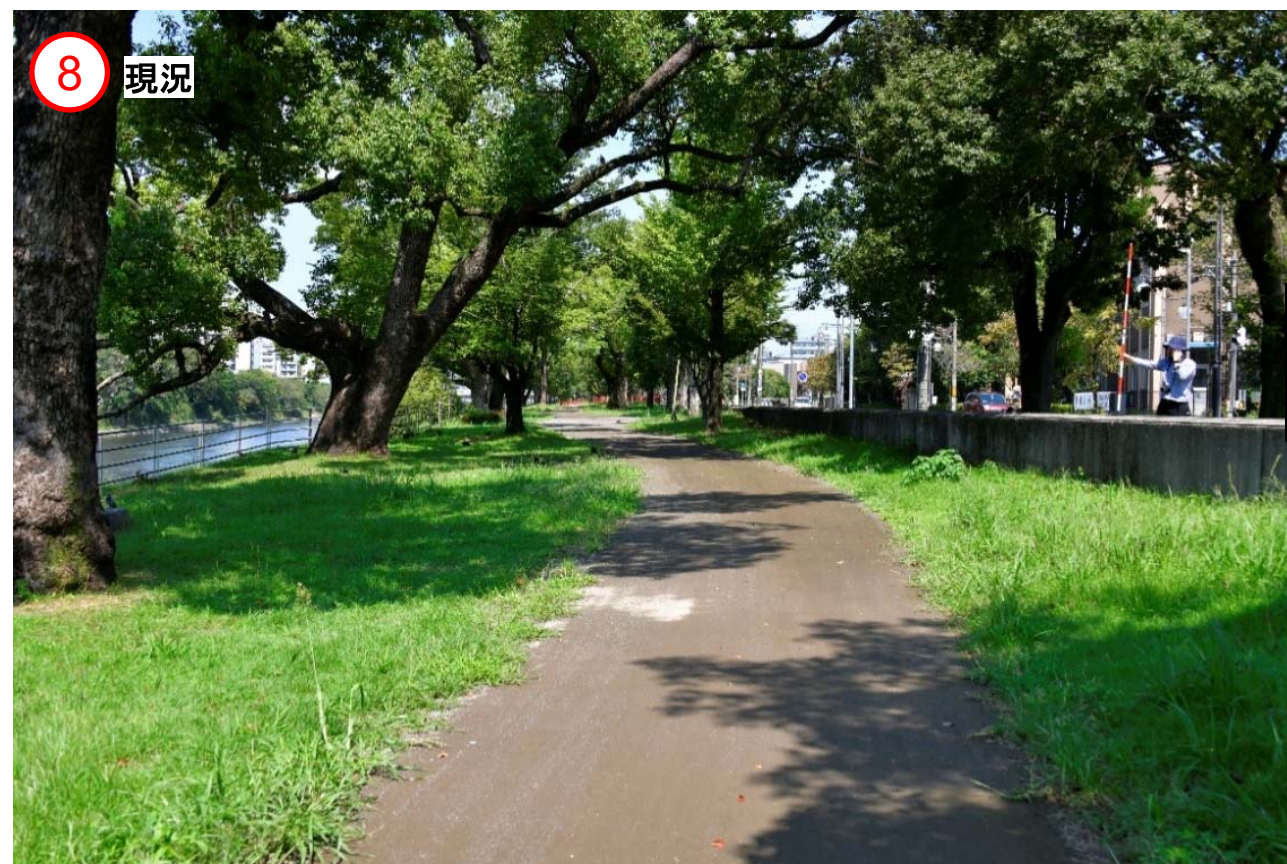
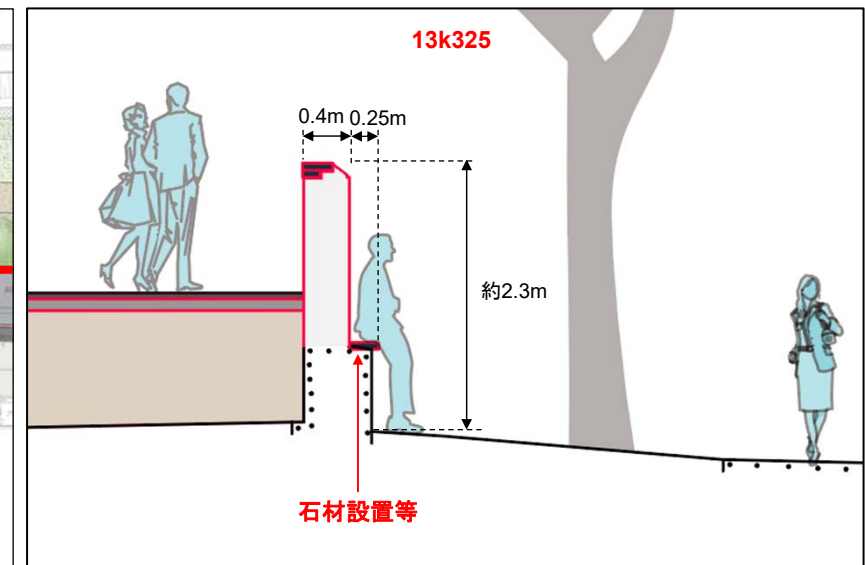
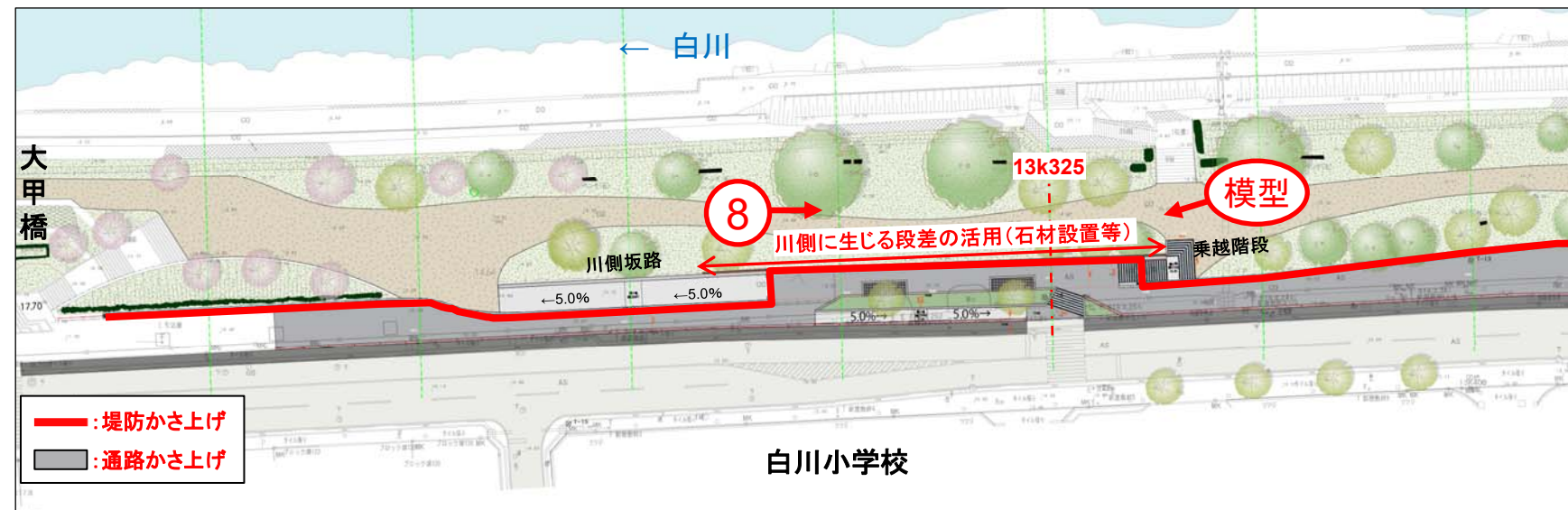
白川「緑の区間」整備計画(案)(7)

- **自転車と歩行者の安全な動線分離**のため、道路管理者である熊本市と調整の上、車道側の自転車専用通行帯整備(将来計画)に必要な幅1.5mを除き、残りの歩道・通路を**一体かさ上げして歩行者用の通路として整備**します。
- 横断歩道付近については、安全で快適な利用動線に配慮した階段・坂路の配置とし、樹木周りを緩やかな勾配の緑地帯にすることにより、**見通しを確保**します。
- 白川小学校前の川側の坂路は、多様な利活用やバリアフリーを考慮して、**陸間部を設けて現状程度の坂路勾配を確保**します。



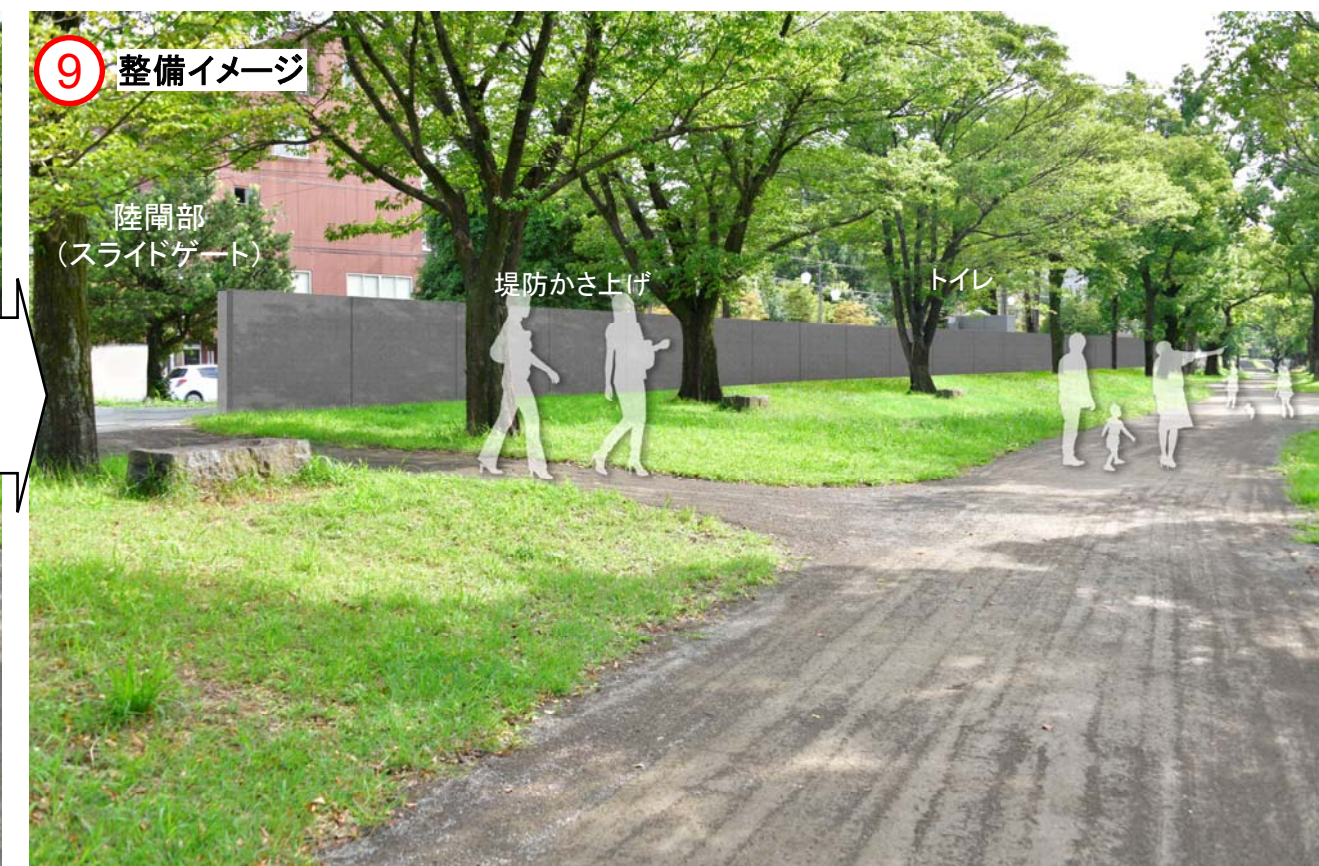
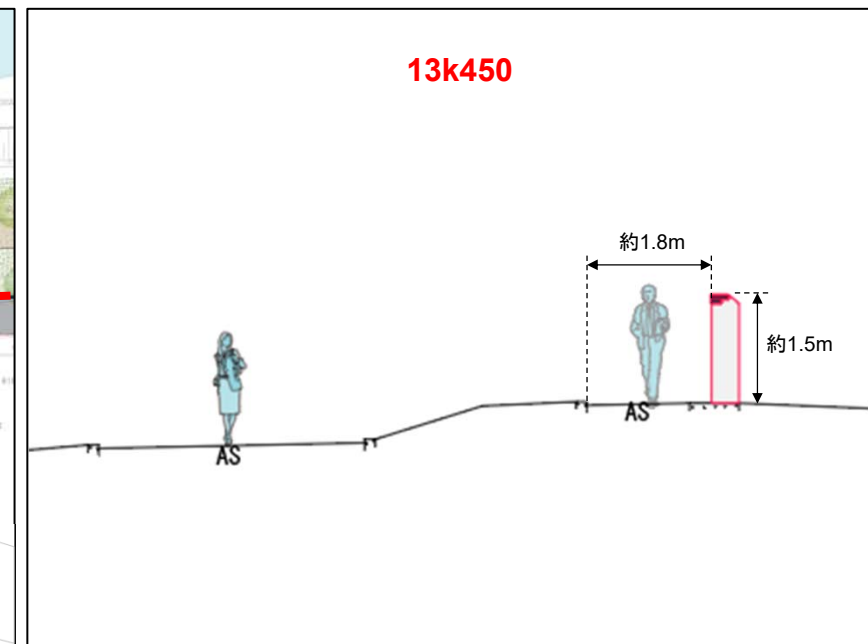
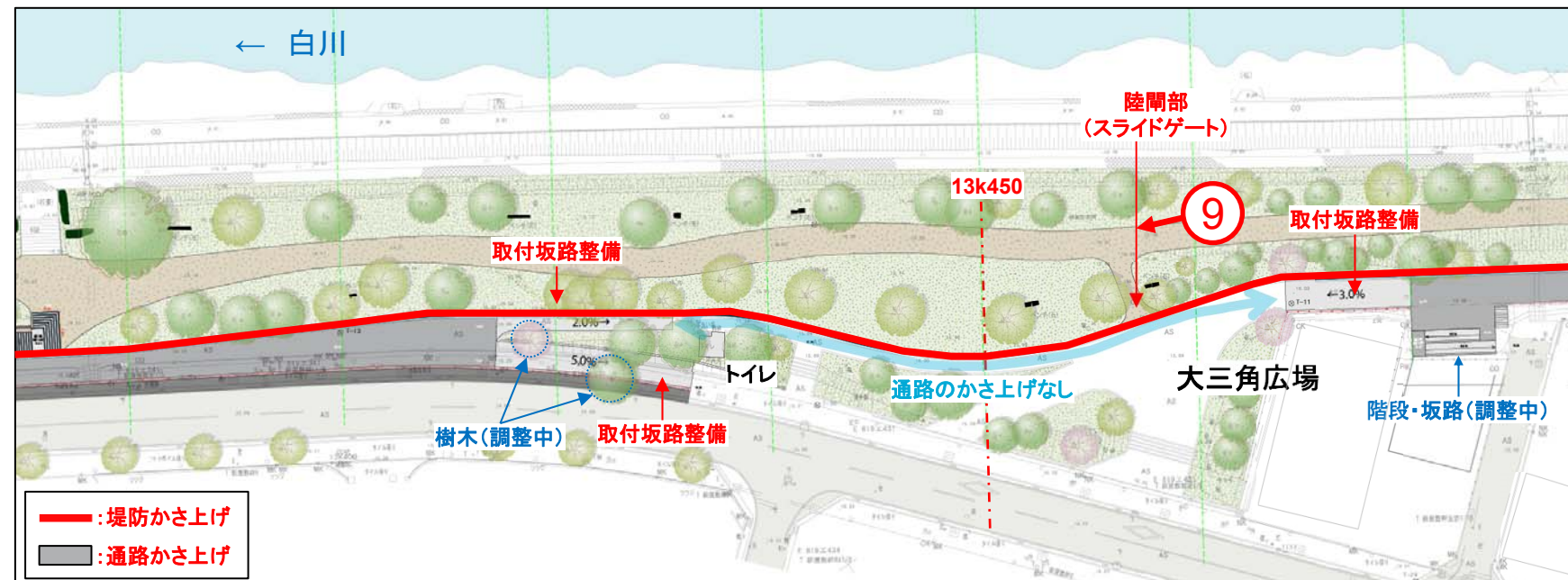
白川「緑の区間」整備計画(案) (8)

- 川側坂路付近から乗越階段付近までの範囲は、既設堤防の通路側の面に合わせて堤防をかさ上げすることで、川側に生じる段差を**利用者が腰かけるものに活用**できるようにします。
- 上記以外の区間(右岸側も含む)は、既設堤防の川側の面に合わせて堤防をかさ上げすることで、**管理用通路幅員を極力確保**できるようにします。



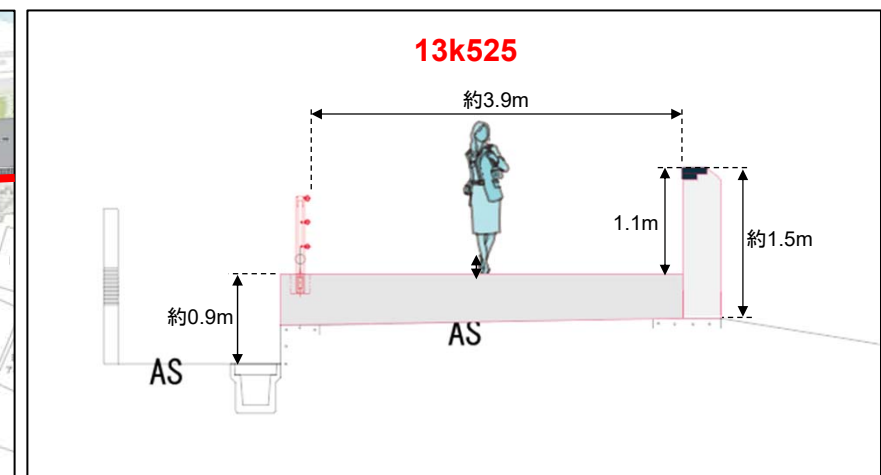
白川「緑の区間」整備計画(案) (9)

- 現在のトイレがある区間の管理用通路は、**現況の高さとし、通行時のバリアフリーに配慮**します。
- その区間は通路沿いに約1.5mの堤防が一連に立ちあがるため、上流端に**陸閘部**を設けて**快適な利活用に配慮(遮蔽感も低減)**します。



白川「緑の区間」整備計画(案) (10)

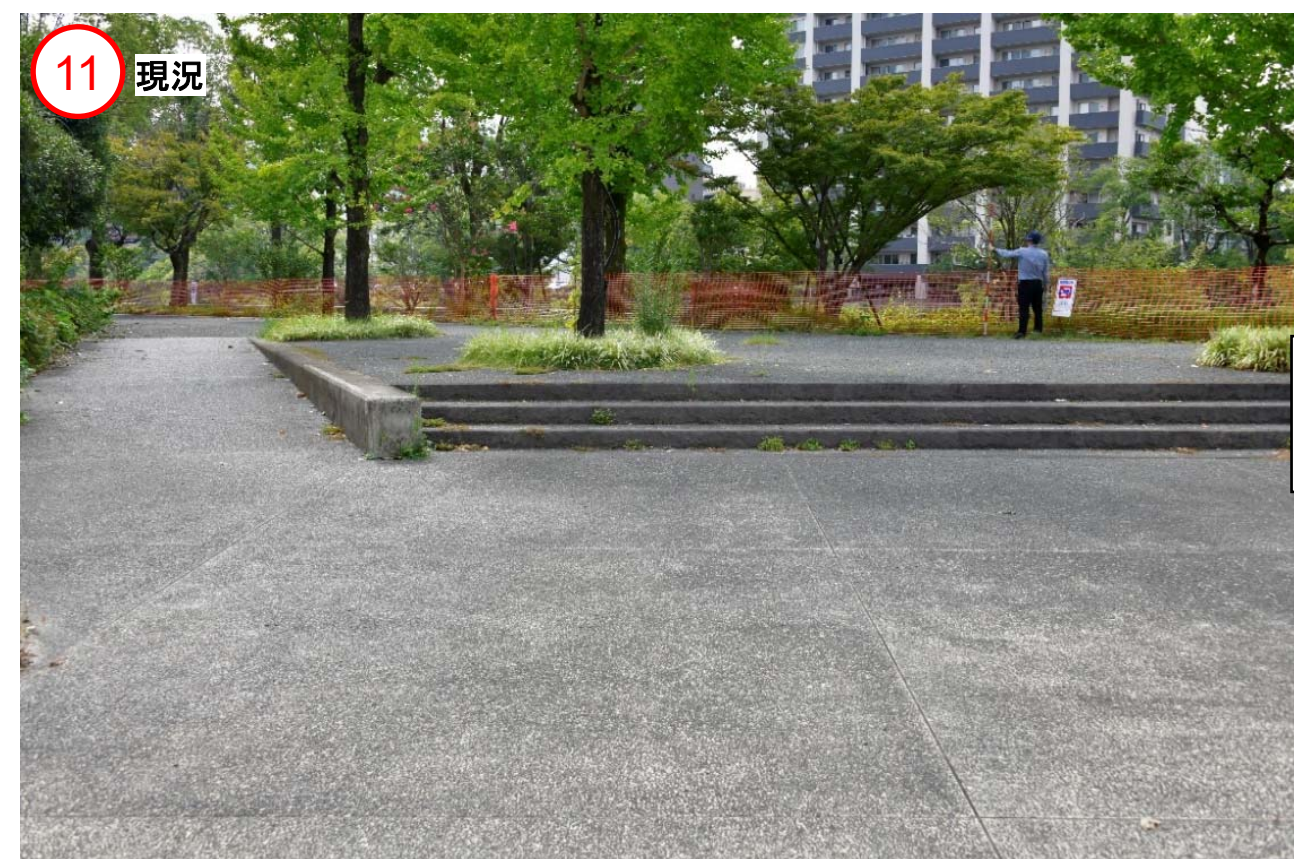
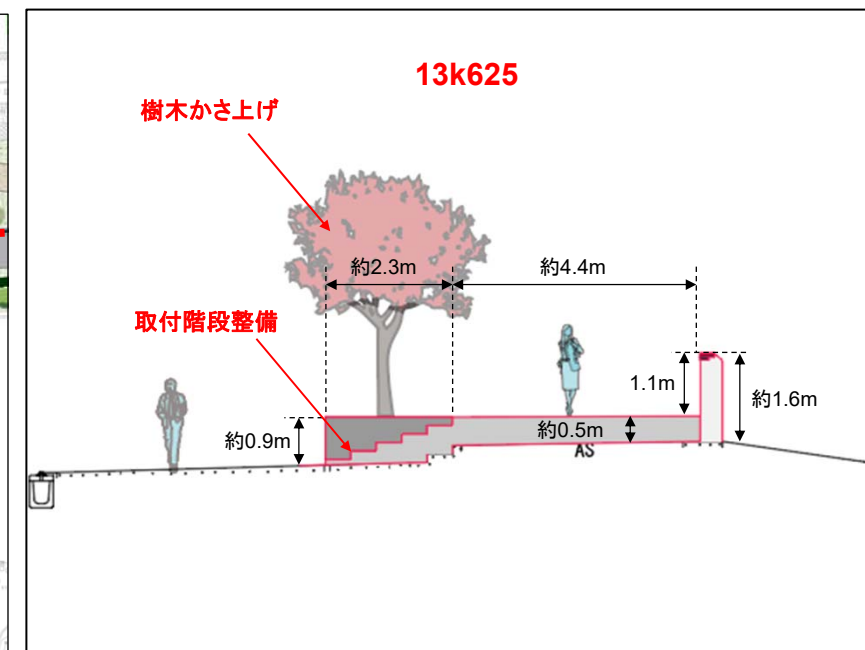
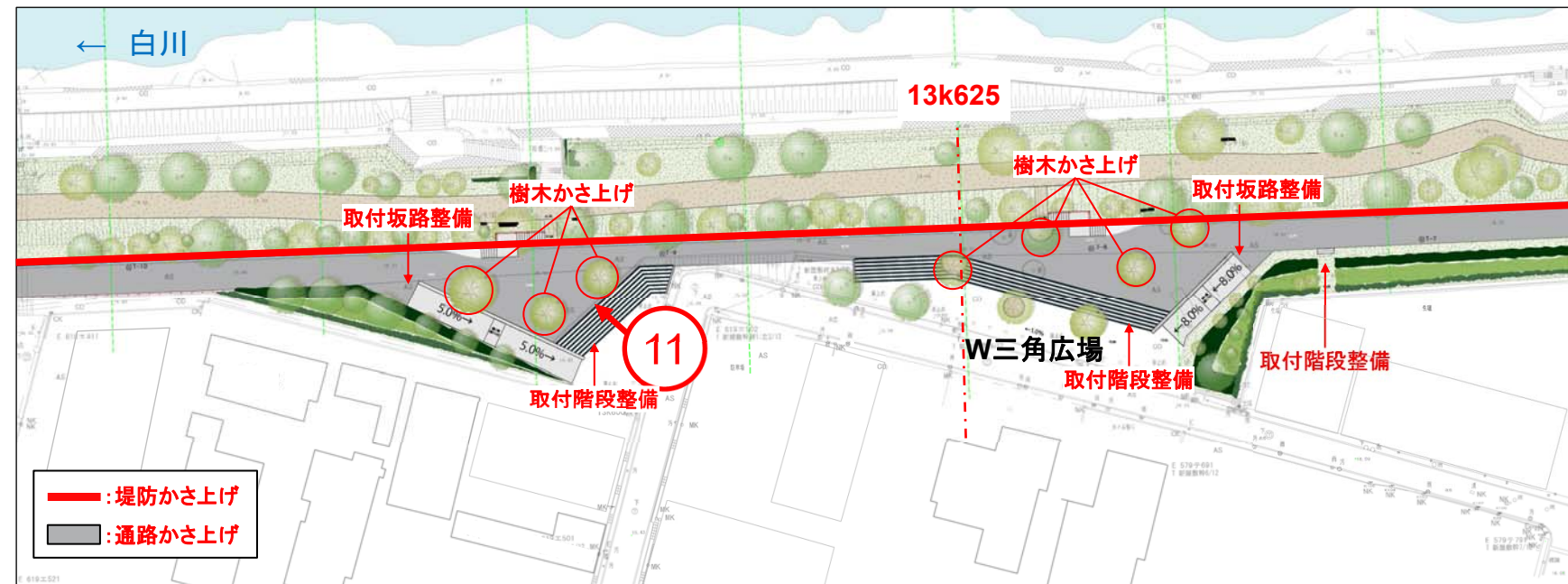
- 整備素案では、左岸上流側管理用通路を小学生が通学に利用している姿が見られることから、**児童でも川側を眺めやすい通路からの堤防高**として、高さ80cmとする案を検討していました。
- 上記について近隣住民や白川小学校の意見を伺ったところ、**安全性(堤防に上りやすい)やプライバシー(民地側が見えやすい)**等について懸念される意見が挙げられました。
- そのため、上記意見や**まち側と川側の安全かつ快適なアクセス(階段段数や坂路の勾配を抑える)**を考慮し、**通路からの堤防高を110cmとし**ました。



白川「緑の区間」整備計画(案) (11)

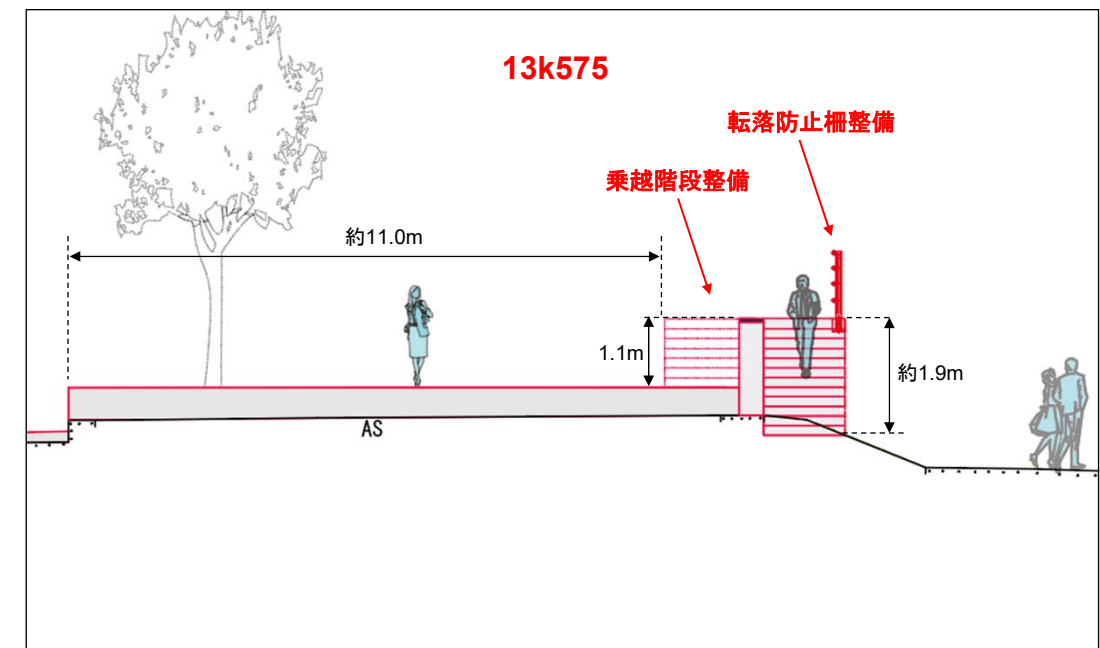
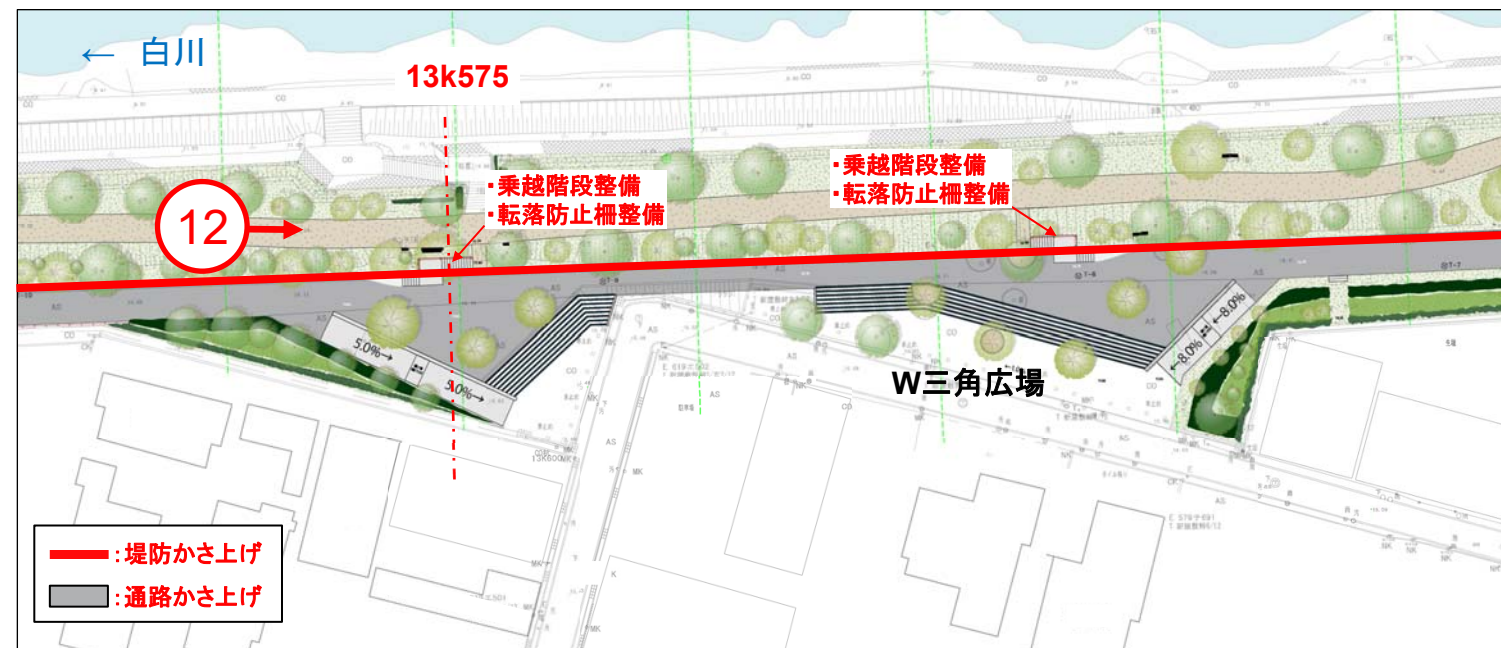
○W三角広場は、**階段の段数を増やしたり坂路の延長を長くしたりして、これまで通りの快適な利活用に配慮します。**

○広場内の樹木は、かさ上げ後の**通路面の高さまでかさ上げて段差をなくす**ことで**安全な利活用に配慮**します。



白川「緑の区間」整備計画(案) (12)

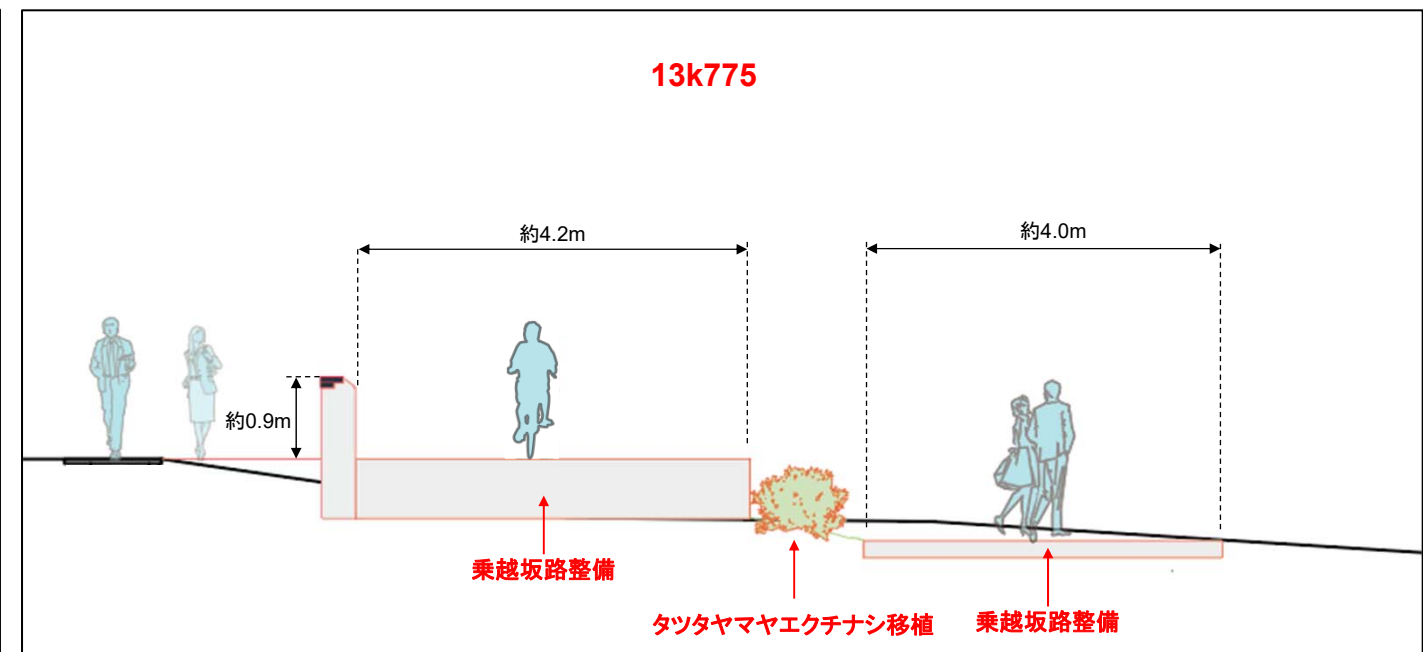
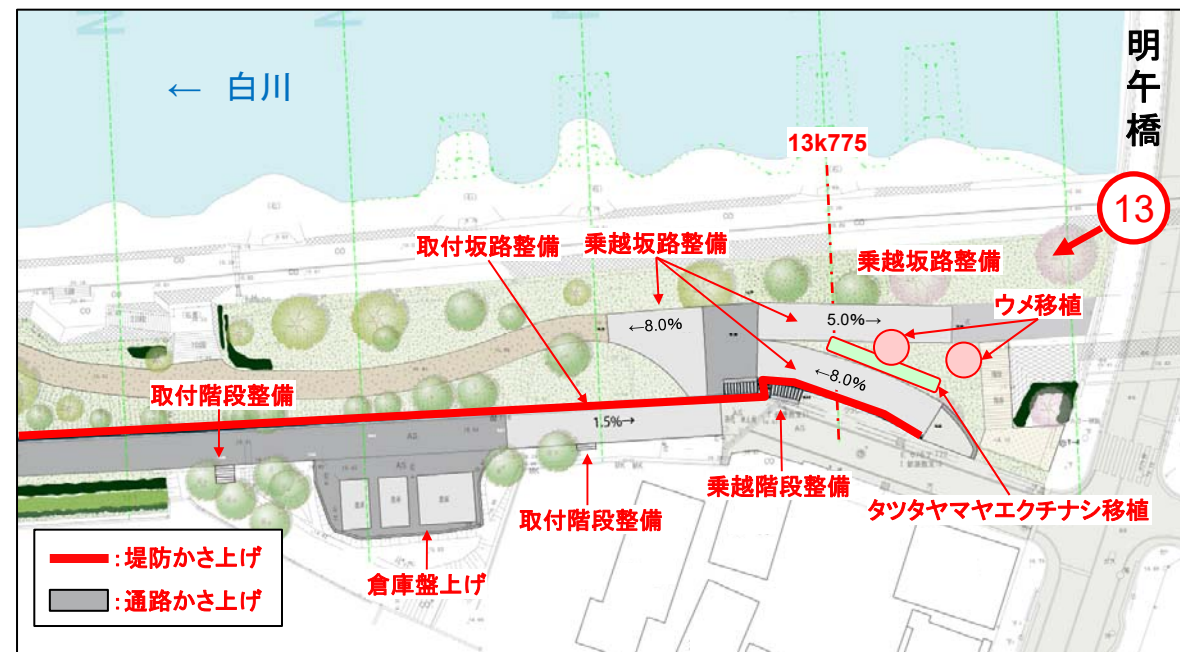
○現在、W三角広場から川側に壁は立ち上がっていませんが、**法面で段差**がついており、植生が伸びてくると動線が分かりにくくなっています。堤防かさ上げ後は壁が立ちあがりますが、**乗越し階段を2箇所整備**(川側には**転落防止柵を整備**)することで**安全で快適な利活用に配慮**します。



白川「緑の区間」整備計画(案) (13)

○明午橋左岸橋詰は、今回川側の通路とまち側の通路が交わる箇所に堤防が立ちあがりますが、橋詰広場に**乗越坂路を整備して安全で快適な通行動線**を確保します。

○広場のウメやタツタヤマヤエクチナシは**移植して保全**します。



○緑の区間の整備を検討するにあたって、河川管理者である熊本河川国道事務所が堤防かさ上げ整備に伴い、できることを整理しました。

熊本河川国道事務所ができること	
目的	堤防のかさ上げ
①	管理用通路(一部歩道と一体)のかさ上げ
②	階段・坂路のかさ上げ
③	転落防止柵等の整備
④	陸間の整備(2箇所)

